

2019 授業科目〈シラバス〉

Okinawa Prefectural University of Arts Syllabus

沖縄県立芸術大学
美術工芸学部

授業科目〈シラバス〉について

この「2019 授業科目〈シラバス〉」は、平成 31 年度に美術工芸学部で開講される専門教育科目について、各担当教員から提出された授業計画（シラバス）をまとめたものです。履修計画や年間の学習計画を立てる際に利用してください。

なお、総合教育科目、共通教育科目及び教職に関する科目は別冊となっています。

1. 実技の授業科目は、その多くが複数の実習（課題）で構成されています。この場合、授業科目の頁のあとに実習（課題）ごとのシラバスが記載されていることがあります。
2. 今年度開講する科目のみを掲載しています。
3. 集中講義科目については、単位数・学期欄に（集中）と表記されています。
4. 担当教員名欄の（名）は名誉教授を、（客）は客員教授を、（非）は非常勤講師を表します。
5. ■履修上の留意点には、履修の条件や注意事項のほかに、授業外の学習を含めて履修にあたり心掛けるべき点、学生への要望等が記載されています。
6. その他、本学の授業科目には科目名の末尾に番号等が付されているものがあります。これらは、科目開設の趣旨や性格、また分類上のルールがありますので、入学時に配布された履修案内等を確認してください。

平成31年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧(平成30年度以降入学生用)

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁
絵 画	必修主要	21110	絵画基礎	5	1	前	実技	1
		21112	日本画Ⅰ	6	1	後	実技	7
		21113	箔	2	1	後	演習	12
		21213	日本画Ⅱ－Ⅰ	6	2	前	実技	13
		21214	日本画Ⅱ－Ⅱ	7	2	後	実技	15
		21121	油画Ⅰ	7	1	後	実技	21
		21223	油画Ⅱ－Ⅰ	6	2	前	実技	25
		21224	油画Ⅱ－Ⅱ	7	2	後	実技	29
		21231	絵画特論Ⅰ	2	1	通年	講義	42
		21331	絵画特論Ⅱ	2	2	通年	講義	43
		21291	古美術研究	4	2	後期	演習	44
	必修専攻 専門関連	21132	彫刻(絵)	2	1	前	演習	45
		21133	デザイン(絵)	2	1	前	演習	46
		21209	工芸(絵)	2	2	前	演習	47
彫 刻	必修主要	22110	デッサン	1	1	前	実技	48
		22113	彫刻Ⅰ－Ⅰ	5	1	前	実技	49
		22114	彫刻Ⅰ－Ⅱ	7	1	後	実技	53
		22213	彫刻Ⅱ－Ⅰ	6	2	前	実技	56
		22214	彫刻Ⅱ－Ⅱ	6	2	後	実技	59
		22215	構成	1	2	後	実技	62
		22231	彫刻特論Ⅰ	2	2	通年	講義	69
		22291	古美術研究	4	2	後	演習	71
	必修専攻 専門関連	22121	絵画(彫)	2	1	前	演習	72
		22209	デザイン(彫)	2	2	前	演習	73
		22132	美術解剖学Ⅰ(骨)	2	1～4	前	講義	75
	選択専攻 専門関連	22133	美術解剖学Ⅱ(筋)	2	1～4	前	講義	休講
芸 術 学	必修主要	23110	素描(芸)	2	1	前	演習	76
		23114	実技研究(絵画)	3	1	後	実技	78
		23115	実技研究(表現)	2	1	後	実技	81
		23113	基礎演習	2	1	後	演習	84
		23217	学外研究	4	2	後	演習	85
	必修専攻 専門関連	23151	絵画(芸)	2	1	前	演習	87
		23152	彫刻(芸)	2	1	前	演習	88
		23153	デザイン(芸)	2	1	前	演習	89
		23154	工芸(芸)	2	1	前	演習	90
	選択主要	23431	語学演習A(英語)	4	2～4	通年	演習	100
		23432	語学演習B(独語)	4	2～4	通年	演習	102
		23433	語学演習C(仏語)	4	2～4	通年	演習	103
		23434	語学演習D(伊語)	4	2～4	通年	演習	104
		23435	原典研究A(古文書)	4	2～4	通年	演習	105
		23436	原典研究B(漢文)	4	2～4	通年	演習	休講
		23437	原典研究C(ラテン語)	4	2～4	通年	演習	106
		23438	美学特講	2	2～4	前	講義	107
		23439	芸術学特講	2	2～4	後	講義	108
		23440	東洋美術史特講	2	2～4	前	講義	109
		23228	日本美術史特講	2	2～4	後	講義	110
		23441	西洋美術史特講	2	2～4	前	講義	111
		23227	比較芸術学特講	2	2～4	後	講義	112
	選択専攻 専門関連	23330	絵画演習A	2	2～3	前	演習	281
		23331	絵画演習B	2	2～3	後	演習	282
		23261	彫刻演習A	2	2～3	前	演習	284
		23262	彫刻演習B	2	2～3	後	演習	285
		23334	デザイン演習A	2	2～3	前	演習	287
		23335	デザイン演習B	2	2～3	後	演習	288
		23336	工芸演習A	2	2～3	前	演習	290
		23337	工芸演習B	2	2～3	後	演習	291

平成31年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧(平成30年度以降入学生用)

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁
デザイン	必修主要	24112	デザインⅠ	3	1	前	実技	113
		24113	木工芸基礎	2	1	後	演習	116
		24114	立体造形(デ)	2	1	後	演習	117
		24115	素描(デ)	1	1	後	実技	118
		24116	色彩構成	2	1	後	演習	119
		24117	空間構成	2	1	後	演習	120
		24223	デザインⅡ－Ⅰ	7	2	前	実技	121
		24224	デザインⅡ－Ⅱ	7	2	後	実技	127
	必修専攻 専門関連	24121	絵画(デ)	2	1	前	演習	147
		24123	彫刻(デ)	2	1	前	演習	148
		24124	工芸(デ)	2	1	前	演習	149
	選択専攻 専門関連	24132	西洋建築史	2	1～4	前	講義	308
		24133	日本建築史	2	1～4	後	講義	309
		24153	クラフトデザイン計画	2	1～4	後	講義	310
		24161	プロダクトデザイン論	2	1～4	後	講義	311
		24162	ビジュアルデザイン論	2	1～4	前	講義	312
		24171	視覚伝達論A	2	1～4	前	演習	313
		24172	視覚伝達論B	2	1～4	後	演習	314
		24181	環境造形論	2	1～4	前	講義	315
		24184	人間工学	2	1～4	後	講義	327
		24251	図学	2	1～4	前	演習	316
工芸	必修主要	25112	描写	1	1	前	実技	150
		25113	色彩	1	1	前	実技	151
		25114	立体構成	1	1	前	実技	152
		25101	工芸Ⅰ	7	1	後	実技	153
		25209	工芸Ⅱ	5	2	前	実技	158
		25261	立体造形(工)	1	2	前	実技	164
		25262	版画	1	2	前	実技	165
		25221	染Ⅰ	7	2	後	実技	167
		25231	織Ⅰ	7	2	後	実技	185
		25232	繊維科学	2	2	後	講義	206
		25222	染色化学	2	2	後	講義	207
		25211	陶芸Ⅰ	7	2	後	実技	209
		25212	窯業化学	2	2	後	講義	226
		25241	漆芸Ⅰ	7	2	後	実技	228
		25242	漆芸科学	2	2	後	講義	249
	必修専攻 専門関連	25102	絵画(工)	2	1	前	演習	251
		25103	彫刻(工)	2	1	前	演習	252
		25104	デザイン(工)	2	1	前	演習	253
	選択専攻 専門関連	25131	陶磁史	2	1～4	前	講義	318
		25132	染織工芸史	2	1～4	前	講義	319
		25151	生活造形論	2	1～4	後	講義	320
		25152	装飾論	2	1～4	後	講義	321
		25171	漆芸論	2	1～4	後	講義	322
		25177	色彩論	2	1～4	前	講義	326

平成31年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧(平成30年度以降入学生用)

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁
全専攻対象 (一部専攻除く科目あり)	選択共通 専門関連	22132	美術解剖学Ⅰ(骨)	2	1～4	前	講義	75
		22133	美術解剖学Ⅱ(筋)	2	1～4	前	講義	休講
		22202	金属演習	2	2～4	後	演習	292
		23125	芸術心理学	2	1～4	後	講義	293
		23126	芸術学	2	1～4	前	講義	294
		23135	彫刻史	2	1～4	前	講義	休講
		23136	デザイン史	2	1～4	前	講義	295
		23137	工芸史	2	1～4	前	講義	296
		23138	絵画史	2	1～4	後	講義	297
		23141	書道史	2	1～4	前	講義	298
		23142	現代芸術論A	2	1～4	後	講義	299
		23143	現代芸術論B	2	1～4	前	講義	300
		23145	一般芸術学	2	1～4	後	講義	301
		23146	日本美術史	2	1～4	前	講義	302
		23147	東洋美術史	2	1～4	前	講義	303
		23148	西洋美術史A	2	1～4	前	講義	304
		23149	西洋美術史B	2	1～4	後	講義	305
		24132	西洋建築史	2	1～4	前	講義	308
		24133	日本建築史	2	1～4	後	講義	309
		24153	クラフトデザイン計画	2	1～4	後	講義	310
		24161	プロダクトデザイン論	2	1～4	後	講義	311
		24162	ビジュアルデザイン論	2	1～4	前	講義	312
		24163	図法及び製図A	2	1～4	前	演習	330
		24164	図法及び製図B	2	1～4	後	演習	331
		24171	視覚伝達論A	2	1～4	前	演習	313
		24172	視覚伝達論B	2	1～4	後	演習	314
		24181	環境造形論	2	1～4	前	講義	315
		24184	人間工学	2	1～4	後	講義	327
		24251	図学	2	1～4	前	演習	316
		24252	CG基礎	2	2～4	後	演習	317
		25131	陶磁史	2	1～4	前	講義	318
		25132	染織工芸史	2	1～4	前	講義	319
		25151	生活造形論	2	1～4	後	講義	320
		25152	装飾論	2	1～4	後	講義	321
		25171	漆芸論	2	1～4	後	講義	322
		25177	色彩論	2	1～4	前	講義	326
自由科目		21202	写真演習	2	1～4	後	演習	335
		24202	スクリーン印刷演習	2	2～4	後	演習	336

平成 31 年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧（平成 29 年度入学生用）

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁
絵 画	必修主要	21311	日本画Ⅲ	14	3	通年	実技	18
		21321	油画Ⅲ	14	3	通年	実技	32
		21331	絵画特論Ⅱ	2	2	通年	講義	43
		21291	古美術研究	4	2	後	演習	44
	選択専攻 専門関連	21431	西洋建築史概説A	2	1～4	前	講義	255
		21432	日本建築史概説A	2	1～4	後	講義	256
		21433	ビジュアルデザイン概論	2	1～4	前	講義	257
		21434	視覚伝達概論A	2	1～4	前	演習	258
		21435	視覚伝達概論B	2	1～4	後	演習	259
		21436	陶磁史概説A	2	1～4	前	講義	260
		21437	染織工芸史概説A	2	1～4	前	講義	261
		21438	生活造形概論A	2	1～4	後	講義	262
		21439	装飾概論A	2	1～4	後	講義	263
		21440	漆芸概論A	2	1～4	後	講義	264
彫 刻	必修主要	22112	彫刻ⅠB	7	1	後	実技	—
		22212	彫刻Ⅱ	13	2	通年	実技	—
		22312	彫刻Ⅲ	13	3	通年	実技	63
		22231	彫刻特論Ⅰ	2	2	通年	講義	69
		22331	彫刻特論Ⅱ	2	3	通年	講義	70
		22291	古美術研究	4	2	後	演習	71
	専攻専門 関連	22207	デザインB	2	2	前	演習	—
		22208	工芸B	2	3	前	演習	74
	選択専攻 専門関連	22132	美術解剖学Ⅰ（骨）	2	1～4	前	講義	75
		22133	美術解剖学Ⅱ（筋）	2	1～4	前	講義	休講
		22421	西洋建築史概説B	2	1～4	前	講義	265
		22422	日本建築史概説B	2	1～4	後	講義	266
		22423	クラフトデザイン計画概論	2	1～4	後	講義	267
		22424	プロダクトデザイン概論	2	1～4	後	講義	268
		22425	環境造形概論	2	1～4	前	講義	269
		22426	陶磁史概説B	2	1～4	前	講義	270
		22427	染織工芸史概説B	2	1～4	前	講義	271
		22428	生活造形概論B	2	1～4	後	講義	272
		22429	装飾概論B	2	1～4	後	講義	273
		22430	漆芸概論B	2	1～4	後	講義	274
芸 術 学	必修主要	23112	実技研究	5	1	後	実技	77
		23113	基礎演習	2	1	後	演習	84
		23217	学外研究	4	2	後	演習	85
	選択主要	23421	美学演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	91
		23422	美学演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	91
		23423	芸術学演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	92
		23424	芸術学演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	93
		23425	日本美術史演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	94
		23426	日本美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	95
		23427	東洋美術史演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	96
		23428	東洋美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	96
		23429	西洋美術史演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	97
		23430	西洋美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	97
		23442	芸術文化論演習	4	3～4	通年	演習	98
		23431	語学演習A（英語）	4	2～4	通年	演習	100
		23432	語学演習B（独語）	4	2～4	通年	演習	102
		23433	語学演習C（仏語）	4	2～4	通年	演習	103
		23434	語学演習D（伊語）	4	2～4	通年	演習	104
		23435	原典研究A（古文書）	4	2～4	通年	演習	105
		23436	原典研究B（漢文）	4	2～4	通年	演習	休講
		23437	原典研究C（ラテン語）	4	2～4	通年	演習	106
		23438	美学特講	2	2～4	前	講義	107
		23439	芸術学特講	2	2～4	後	講義	108

平成 31 年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧（平成 29 年度入学生用）

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁
芸術学	選択主要	23440	東洋美術史特講	2	2～4	前	講義	109
		23228	日本美術史特講	2	2～4	後	講義	110
		23441	西洋美術史特講	2	2～4	後	講義	111
		23227	比較芸術学特講	2	2～4	後	講義	112
	選択専攻 専門関連	23125	芸術心理学	2	1～4	後	講義	293
		23126	芸術学	2	1～4	前	講義	294
		23135	彫刻史	2	1～4	前	講義	休講
		23136	デザイン史	2	1～4	前	講義	295
		23137	工芸史	2	1～4	前	講義	296
		23138	絵画史	2	1～4	後	講義	297
		23141	書道史	2	1～4	前	講義	298
		23142	現代芸術論 A	2	1～4	後	講義	299
		23143	現代芸術論 B	2	1～4	前	講義	300
		23145	一般芸術学	2	1～4	後	講義	301
		23146	日本美術史	2	1～4	前	講義	302
		23147	東洋美術史	2	1～4	前	講義	303
		23148	西洋美術史 A	2	1～4	前	講義	304
		23149	西洋美術史 B	2	1～4	後	講義	305
		23320	絵画演習	4	2～3	通年	演習	274
		23321	彫刻演習	4	2～3	通年	演習	277
		23322	デザイン演習	4	2～3	通年	演習	286
		23323	工芸演習	4	2～3	通年	演習	289
		23443	陶磁史概説 C	2	1～4	前	講義	275
		23444	染織工芸史概説 C	2	1～4	前	講義	276
		23445	生活造形概論 C	2	1～4	後	講義	277
		23446	装飾概論 C	2	1～4	後	講義	278
		23447	漆芸概論 C	2	1～4	後	講義	279
デザイン	必修主要	24341	デザインⅢ A	7	3	前	実技	133
		24342	デザインⅢ B	7	3	後	実技	139
		24331	デザイン特別演習	2	3	後	演習	145
		24391	学外研究	4	3	後	演習	146
	選択専攻 専門関連	24132	西洋建築史	2	1～4	前	講義	308
		24133	日本建築史	2	1～4	後	講義	309
		24153	クラフトデザイン計画	2	1～4	後	講義	310
		24161	プロダクトデザイン論	2	1～4	後	講義	311
		24162	ビジュアルデザイン論	2	1～4	前	講義	312
		24171	視覚伝達論 A	2	1～4	前	演習	313
		24172	視覚伝達論 B	2	1～4	後	演習	314
		24181	環境造形論	2	1～4	前	講義	325
		24182	色彩論	2	1～4	前	講義	326
		24184	人間工学	2	1～4	後	講義	327
		24251	図学	2	1～4	前	演習	316
		24252	C G 基礎	2	2～4	後	演習	317
	選択共通 専門関連	25131	陶磁史	2	1～4	前	講義	318
		25132	染織工芸史	2	1～4	前	講義	319
		25151	生活造形論	2	1～4	後	講義	320
		25152	装飾論	2	1～4	後	講義	321
		25171	漆芸論	2	1～4	後	講義	322

平成 31 年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧（平成 29 年度入学生用）

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁
工 芸	必修主要	25321	染Ⅱ	14	3	通年	実技	173
		25331	織Ⅱ	14	3	通年	実技	190
		25322	染織特別演習	2	3	後	演習	208
		25311	陶芸Ⅱ	14	3	通年	実技	214
		25312	陶芸特別演習	2	3	通年	演習	227
		25341	漆芸Ⅱ	14	3	通年	実技	235
		25342	漆芸特別演習	2	3	前	演習	250
	選択専攻 専門関連	25131	陶磁史	2	1～4	前	講義	318
		25132	染織工芸史	2	1～4	前	講義	319
		25151	生活造形論	2	1～4	後	講義	320
		25152	装飾論	2	1～4	後	講義	321
		25162	図法及び製図	4	1～4	通年	演習	328
		25171	漆芸論	2	1～4	後	講義	322
		25172	絵画史概説	2	1～4	後	講義	323
		25173	彫刻史概説	2	1～4	前	講義	休講
		25174	現代芸術概論A	2	1～4	後	講義	324
		25175	現代芸術概論B	2	1～4	前	講義	325
		25176	沖縄美術工芸史概説	2	1～2	後	講義	休講
全専攻対象（一部専攻除く科目あり）	選択共通 専門関連	22132	美術解剖学Ⅰ（骨）	2	1～4	前	講義	75
		22133	美術解剖学Ⅱ（筋）	2	1～4	前	講義	休講
		22202	金属演習	2	2～4	後	演習	292
		23125	芸術心理学	2	1～4	後	講義	293
		23126	芸術学	2	1～4	前	講義	294
		23135	彫刻史	2	1～4	前	講義	休講
		23136	デザイン史	2	1～4	前	講義	295
		23137	工芸史	2	1～4	前	講義	296
		23138	絵画史	2	1～4	後	講義	297
		23141	書道史	2	1～4	前	講義	298
		23142	現代芸術論A	2	1～4	後	講義	299
		23143	現代芸術論B	2	1～4	前	講義	300
		23145	一般芸術学	2	1～4	前	講義	301
		23146	日本美術史	2	1～4	前	講義	302
		23147	東洋美術史	2	1～4	後	講義	303
		23148	西洋美術史A	2	1～4	前	講義	304
		23149	西洋美術史B	2	1～4	後	講義	305
		24132	西洋建築史	2	1～4	後	講義	308
		24133	日本建築史	2	1～4	後	講義	309
		24153	クラフトデザイン計画	2	1～4	前	講義	310
		24161	プロダクトデザイン論	2	1～4	前	演習	311
		24162	ビジュアルデザイン論	2	1～4	後	演習	312
		24171	視覚伝達論A	2	1～4	前	講義	313
		24172	視覚伝達論B	2	1～4	前	講義	314
		24181	環境造形論	2	1～4	後	講義	315
		24182	色彩論	2	1～4	前	演習	326
		24184	人間工学	2	2～4	後	演習	327
		24251	図学	4	1～4	通年	演習	316
		24252	CG基礎	2	1～4	後	演習	317
		25162	図法及び製図	2	2～4	後	演習	328
自由科目		21202	写真演習	2	1～4	後	演習	335
		24202	スクリーン印刷演習	2	2～4	後	演習	336

平成 31 年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧（平成 28 年度入学生用）

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁
絵 画	必修主要	21311	日本画Ⅲ	14	3	通年	実技	18
		21411	日本画Ⅳ	15	4	通年	実技	20
		21321	油画Ⅲ	14	3	通年	実技	32
		21421	油画Ⅳ	15	4	通年	実技	39
	選択専攻 専門関連	21431	西洋建築史概説 A	2	1～4	前	講義	256
		21432	日本建築史概説 A	2	1～4	後	講義	256
		21433	ビジュアルデザイン概論	2	1～4	前	講義	257
		21434	視覚伝達概論 A	2	1～4	前	演習	258
		21435	視覚伝達概論 B	2	1～4	後	演習	259
		21436	陶磁史概説 A	2	1～4	前(集中)	講義	260
		21437	染織工芸史概説 A	2	1～4	前	講義	261
		21438	生活造形概論 A	2	1～4	後	講義	262
		21439	装飾概論 A	2	1～4	後(集中)	講義	263
		21440	漆芸概論 A	2	1～4	後	講義	264
彫 刻	必修主要	22311	彫刻Ⅲ	14	3	通年	実技	63
		22411	彫刻Ⅳ	15	4	通年	実技	68
		22331	彫刻特論Ⅱ	2	3	通年	講義	70
	選択専攻 専門関連	22132	美術解剖学Ⅰ(骨)	2	1～4	前	講義	75
		22133	美術解剖学Ⅱ(筋)	2	1～4	前	講義	休講
		22421	西洋建築史概説 B	2	1～4	前	講義	265
		22422	日本建築史概説 B	2	1～4	後	講義	266
		22423	クラフトデザイン計画概論	2	1～4	後(集中)	講義	267
		22424	プロダクトデザイン概論	2	1～4	後	講義	268
		22425	環境造形概論	2	1～4	前	講義	269
		22426	陶磁史概説 B	2	1～4	前(集中)	講義	270
		22427	染織工芸史概説 B	2	1～4	前	講義	271
		22428	生活造形概論 B	2	1～4	後	講義	272
		22429	装飾概論 B	2	1～4	後(集中)	講義	273
		22430	漆芸概論 B	2	1～4	後	講義	274
芸 術 学	必修主要	23411	卒業論文	5	4	通年	演習	86
	選択主要	23421	美学演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	91
		23422	美学演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	91
		23423	芸術学演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	92
		23424	芸術学演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	93
		23425	日本美術史演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	94
		23426	日本美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	95
		23427	東洋美術史演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	96
		23428	東洋美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	96
		23429	西洋美術史演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	97
		23430	西洋美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	97
		23442	芸術文化論演習	4	3～4	通年	演習	98
		23431	語学演習 A (英語)	4	2～4	通年	演習	100
		23432	語学演習 B (独語)	4	2～4	通年	演習	102
		23433	語学演習 C (仏語)	4	2～4	通年	演習	103
		23434	語学演習 D (伊語)	4	2～4	通年	演習	104
		23435	原典研究 A (古文書)	4	2～4	通年	演習	105
		23436	原典研究 B (漢文)	4	2～4	通年	演習	休講
		23437	原典研究 C (ラテン語)	4	2～4	通年	演習	106
		23438	美学特講	2	2～4	通年	講義	107
		23439	芸術学特講	2	2～4	通年	講義	108
		23440	東洋美術史特講	2	2～4	通年	講義	109
		23228	日本美術史特講	2	2～4	通年	講義	110
		23441	西洋美術史特講	2	2～4	通年	講義	111
		23227	比較芸術学特講	2	2～4	通年	講義	112
	選択専攻 専門関連	23125	芸術心理学	2	1～4	後	講義	293
		23126	芸術学	2	1～4	前	講義	294
		23135	彫刻史	2	1～4	前	講義	休講
		23136	デザイン史	2	1～4	前	講義	295
		23137	工芸史	2	1～4	前	講義	296
		23138	絵画史	2	1～4	後	講義	297

平成 31 年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧 (平成 28 年度入学生用)

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁
芸術学	選択専攻 専門関連	23141	書道史	2	1～4	前	講義	298
		23142	現代芸術論 A	2	1～4	後	講義	299
		23143	現代芸術論 B	2	1～4	前	講義	300
		23145	一般芸術学	2	1～4	後	講義	301
		23146	日本美術史	2	1～4	前	講義	302
		23147	東洋美術史	2	1～4	前	講義	303
		23148	西洋美術史 A	2	1～4	前	講義	304
		23149	西洋美術史 B	2	1～4	後	講義	305
		23320	絵画演習	4	2～3	通年	演習	274
		23321	彫刻演習	4	2～3	通年	演習	283
		23322	デザイン演習	4	2～3	通年	演習	286
		23323	工芸演習	4	2～3	通年	演習	289
		23443	陶磁史概説 C	2	1～4	前	講義	275
		23444	染織工芸史概説 C	2	1～4	前	講義	276
		23445	生活造形概説 C	2	1～4	後	講義	277
		23446	装飾概説 C	2	1～4	後(集中)	講義	278
		23447	漆芸概説 C	2	1～4	後	講義	279
		23442	芸術文化論演習	4	3～4	通年	演習	98
デザイン	必修主要	24341	デザインⅢ A	7	3	前	実技	133
		24342	デザインⅢ B	7	3	後	実技	139
		24431	デザインⅣ	15	4	通年	実技	144
		24331	デザイン特別演習	2	3	後	演習	145
		24391	学外研究	4	3	後	演習	146
	選択専攻 専門関連	24131	建築史	4	1～4	通年	講義	306
		24153	クラフトデザイン計画	2	1～4	後	講義	310
		24161	プロダクトデザイン論	2	1～4	後	講義	311
		24162	ビジュアルデザイン論	2	1～4	前	講義	312
		24171	視覚伝達論 A	2	1～4	前	演習	313
		24172	視覚伝達論 B	2	1～4	後	演習	314
		24181	環境造形論	2	1～4	前	講義	315
		24182	色彩論	2	1～4	前	講義	326
		24184	人間工学	2	1～4	後	講義	327
		24251	図学	2	1～4	前	演習	316
		24252	C G 基礎	2	2～4	後	演習	317
	選択共通 専門関連	25131	陶磁史	2	1～4	前	講義	318
		25132	染織工芸史	2	1～4	前	講義	319
		25151	生活造形論	2	1～4	後	講義	320
		25152	装飾論	2	1～4	後	講義	321
		25171	漆芸論	2	1～4	後	講義	322
工芸	必修主要	25433	染Ⅲ	15	4	通年	実技	182
		25331	織Ⅱ	14	3	通年	実技	190
		25434	織Ⅲ	15	4	通年	実技	202
		25222	染色化学	2	2	後	講義	207
		25322	染織特別演習	2	3	前	演習	208
		25411	陶芸Ⅲ	15	4	通年	実技	223
		25341	漆芸Ⅱ	14	3	通年	実技	235
		25442	漆芸Ⅲ	15	4	通年	実技	246
		25242	漆芸科学	2	2	後	講義	249
		25342	漆芸特別演習	2	3	前	演習	250
		25391	古美術研究	4	3	後	演習	166
	選択専攻 専門関連	25131	陶磁史	2	1～4	前	講義	318
		25132	染織工芸史	2	1～4	前	講義	319
		25151	生活造形論	2	1～4	後	講義	320
		25152	装飾論	2	1～4	後	講義	321
		25162	図法及び製図	4	1～4	通年	演習	328
		25171	漆芸論	2	1～4	後	講義	322
		25172	絵画史概説	2	1～4	通年	講義	323
		25173	彫刻史概説	2	1～4	前	講義	休講
		25174	現代芸術概説 A	2	1～4	後	講義	324
		25175	現代芸術概説 B	2	1～4	前	講義	325

平成 31 年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧（平成 28 年度入学生用）

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁
全専攻対象（一部専攻除く科目あり）	選択共通 専門関連	22132	美術解剖学Ⅰ（骨）	2	1～4	前	講義	75
		22133	美術解剖学Ⅱ（筋）	2	1～4	前	講義	休講
		22202	金属演習	2	2～4	後	演習	292
		23125	芸術心理学	2	1～4	後	講義	293
		23126	芸術学	2	1～4	前	講義	294
		23135	彫刻史	2	1～4	前	講義	休講
		23136	デザイン史	2	1～4	前	講義	295
		23137	工芸史	2	1～4	前	講義	296
		23138	絵画史	2	1～4	後	講義	297
		23141	書道史	2	1～4	前	講義	298
		23142	現代芸術論A	2	1～4	後	講義	299
		23143	現代芸術論B	2	1～4	前	講義	300
		23145	一般芸術学	2	1～4	後	講義	301
		23146	日本美術史	2	1～4	前	講義	302
		23147	東洋美術史	2	1～4	前	講義	303
		23148	西洋美術史A	2	1～4	前	講義	304
		23149	西洋美術史B	2	1～4	後	講義	305
		24131	建築史	4	1～4	通年	講義	306
		24153	クラフトデザイン計画	2	1～4	後	講義	310
		24161	プロダクトデザイン論	2	1～4	後	講義	311
		24162	ビジュアルデザイン論	2	1～4	前	講義	312
		24171	視覚伝達論A	2	1～4	前	演習	313
		24172	視覚伝達論B	2	1～4	後	演習	314
		24181	環境造形論	2	1～4	前	講義	315
		24182	色彩論	2	1～4	前	講義	326
		24184	人間工学	2	1～4	後	講義	327
		24251	図学	2	1～4	前	演習	316
		24252	CG基礎	2	2～4	後	演習	317
		25162	図法及び製図	4	1～4	通年	演習	328
自由科目	デザイン	24203	絵画C	3	2～4	通年	演習	334
		24204	彫刻C	4	2～4	前	演習	334
		24205	工芸D	4	2～4	通年	演習	334
		22203	絵画A	3	2～4	通年	演習	334
	彫刻	22204	デザインB	3	1～4	通年	演習	334
		22205	工芸B	4	2～4	通年	演習	334
		25203	絵画D	3	2～4	通年	演習	334
	工芸	25204	彫刻D	4	2～4	前	演習	334
		25205	デザインD	3	1～4	通年	演習	334
		23101	絵画B	3	2～4	通年	演習	334
	芸術学	23102	彫刻B	4	2～4	前	演習	334
		23103	デザインC	3	1～4	通年	演習	334
		23104	工芸C	4	2～4	通年	演習	334
		21203	彫刻A	4	2～4	前	演習	334
	絵画	21204	デザインA	3	1～4	通年	演習	334
		21205	工芸A	4	2～4	通年	演習	334
自由科目		21202	写真演習	2	1～4	後	演習	335
		24202	スクリーン印刷演習	2	2～4	後	演習	336

平成31年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧(平成27年度以前入学生用)

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁
絵画	必修主要	21411	日本画Ⅳ	15	4	通年	実技	20
		21421	油画Ⅳ	15	4	通年	実技	39
彫刻	必修 主要	22311	彫刻Ⅲ	14	3	通年	実技	63
		22411	彫刻Ⅳ	15	4	通年	実技	68
芸術学	必修主要	23228	日本美術史特講	2	2～4	前	講義	111
		23411	卒業論文	5	4	通年	演習	86
		23421	美学演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	91
		23422	美学演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	91
		23424	芸術学演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	93
		23425	日本美術史演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	94
		23426	日本美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	95
		23428	東洋美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	96
		23430	西洋美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	97
		23432	語学演習B(独語)	4	2～4	通年	演習	102
		23434	語学演習D(伊語)	4	2～4	通年	演習	104
		23435	原典研究A(古文書)	4	2～4	通年	演習	105
		23437	原典研究C(ラテン語)	4	2～4	通年	演習	106
		23438	美学特講	2	2～4	前	講義	107
	選択 専門関連	23320	絵画演習	4	2～3	通年	演習	280
		23321	彫刻演習	4	2～3	通年	演習	283
		23322	デザイン演習	4	2～3	通年	演習	286
デザイン	必修主要	24331	デザイン特別演習	2	3	後	演習	145
		24341	デザインⅢA	7	3	前	実技	133
		24342	デザインⅢB	7	3	後	実技	139
		24391	学外研究	4	3	後	演習	146
		24431	デザインⅣ	15	4	通年	実技	144
工芸	必修主要	25321	染Ⅱ	14	3	通年	実技	173
		25421	染Ⅲ	15	4	通年	実技	182
		25331	織Ⅱ	14	3	通年	実技	190
		25431	織Ⅲ	15	4	通年	実技	202
		25232	繊維科学	2	2	後	講義	206
		25242	漆芸科学	2	2	後	講義	249
		25311	陶芸Ⅱ	14	3	通年	実技	214
		25411	陶芸Ⅲ	15	4	通年	実技	223
		25312	陶芸特別演習	2	3	通年	演習	227
		25341	漆芸Ⅱ	14	3	通年	実技	235
		25441	漆芸Ⅲ	15	4	通年	実技	246
		25322	染織特別演習	2	3	前	演習	208
		25391	古美術研究	4	3	後	演習	166
全専攻共通	選択 専門関連	22132	美術解剖学Ⅰ(骨)	2	1～4	前	講義	75
		22133	美術解剖学Ⅱ(筋)	2	1～4	前	講義	休講
		22202	金属演習	2	2～4	後	演習	292
		23125	芸術心理学	2	1～4	後	講義	293
		23126	芸術学	2	1～4	前	講義	294
		23136	デザイン史	2	1～4	前	講義	295
		23137	工芸史	2	1～4	前	講義	296
		23138	絵画史	2	1～4	後	講義	297
		23141	書道史	2	1～4	前	講義	298
		23142	現代芸術論A	2	1～4	後	講義	299
		23143	現代芸術論B	2	1～4	前	講義	300
		24131	建築史	4	1～4	通年	講義	306
		24153	クラフトデザイン計画	2	2～4	後	講義	310
		24161	プロダクトデザイン論	2	1～4	後	講義	311
		24162	ビジュアルデザイン論	2	1～4	前	講義	312
		24171	視覚伝達論A	2	1～4	前	演習	313
		24172	視覚伝達論B	2	1～4	後	演習	314
		24181	環境造形論	2	1～4	前	講義	315
		24182	色彩論	2	1～4	後	講義	326
		24184	人間工学	2	1～4	後	講義	327

平成31年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧(平成27年度以前入学生用)

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁
全 専 攻 共 通	選 択 専 門 関 連	24251	図学	2	1～4	前	演習	316
		24252	C G基礎	2	2～4	後	演習	317
		25131	陶磁史	2	1～4	前	講義	318
		25132	染織工芸史	2	1～4	前	講義	319
		25151	生活造形論	2	1～4	後	講義	320
		25152	装飾論	2	1～4	後	講義	321
		25162	図法及び製図	4	1～4	通年	演習	328
		25171	漆芸論	2	1～4	後	講義	322
		23145	一般芸術学	2	1～4	後	講義	301
		23146	日本美術史	2	1～4	前	講義	302
		23147	東洋美術史	2	1～4	前	講義	303
		23148	西洋美術史A	2	1～4	前	講義	304
		23149	西洋美術史B	2	1～4	後	講義	305
自由科目		21201	絵画	3	2～4	通年	演習	333
		22201	彫刻	4	2～4	前	演習	333
		24201	デザイン	3	1～4	通年	演習	333
		25201	工芸	4	2～4	通年	演習	333
		21202	写真演習	2	1～4	後	演習	335
		24202	スクリーン印刷演習	2	2～4	後	演習	336

実務経験のある教員による授業科目（実践的教育を行う授業）

対象専攻等	区分		授業科目名	単位数	授業区分	教員名	職	担当形態	実務経験等	掲載頁
学部	選択科目	共通専門 関連科目	ビジュアルデザイン概論 ビジュアルデザイン論	2	講義	笹原浩造	准教授	単独	アートディレクター、化粧品会社宣 伝部勤務（1986～2010年）	257 312
			視覚伝達概論A 視覚伝達論A（印刷）	2	演習	赤嶺雅	教授	単独	グラフィックデザイナー、民間企業 （情報通信機械器具製造業、印刷業） デザイン室勤務（1986～1992年）	258 313
			視覚伝達概論B 視覚伝達論B（映像）	2	演習	仲本賢	教授	単独	映像作家	259 314
			環境造形概論 環境造形論	2	講義	宮里武志	准教授	単独	設計事務所主宰、建築設計事務所等 勤務（1994～2002年）	269 315
			日本美術史	2	講義	小林純子	教授	単独	公立博物館学芸員（1989～1994年）	302
			西洋美術史B	2	講義	土屋誠一	准教授	単独	美術批評家	305
			C G基礎	2	演習	真喜志康一	非常勤講師	単独	デザイン事務所経営	317
絵画専攻	必修科目	主要科目	日本画Ⅳ	15	実技	平山英樹	教授	複数	日本画家	20
						香川亮	准教授		画家	
						関谷理	講師		日本画家	
		油画Ⅳ	15	実技	田中睦治	教授	複数	美術家	39～41	
					知花均	教授		版画家		
					高崎賀朗	准教授		画家		
彫刻専攻	必修科目	主要科目	彫刻Ⅳ	15	実技	波多野泉	教授	複数	彫刻家	68
						砂川泰彦	教授		彫刻家	
						河原圭佑	講師		彫刻家	
						長尾恵那	講師		彫刻家	
		彫刻特論Ⅱ	2	講義	波多野泉	教授	オムニバス	彫刻家	70	
					砂川泰彦	教授		彫刻家		
					河原圭佑	講師		彫刻家		
					長尾恵那	講師		彫刻家		
芸術学専攻	選択科目	主要科目	芸術学演習Ⅰ	4	演習	土屋誠一	准教授	単独	美術批評家	92
			芸術学演習Ⅱ	4	演習	土屋誠一	准教授	単独	美術批評家	93
			日本美術史演習Ⅰ	4	演習	小林純子	教授	単独	公立博物館学芸員（1989～1994年）	94
			日本美術史演習Ⅱ	4	演習	小林純子	教授	単独	公立博物館学芸員（1989～1994年）	95
			芸術学特講	2	講義	土屋誠一	准教授	単独	美術批評家	108
			日本美術史特講	2	講義	小林純子	教授	単独	公立博物館学芸員（1989～1994年）	110
デザイン専攻	必修科目	主要科目	デザインⅢA	7	実技	笹原浩造	准教授	複数	アートディレクター、化粧品会社宣 伝部勤務（1986～2010年）	133 134
						高田浩樹	准教授	単独	デザイン事務所主宰	133 135
						又吉浩	准教授	単独	アニメーション作家	133 136
						宮里武志	准教授	単独	設計事務所主宰、建築設計事務所等 勤務（1994～2002年）	133 137
						座波嘉克	教授	複数	プロダクトデザイナー	133 138
						（インターンシップ）		複数	インターンシップA・B	133
						又吉浩	准教授	単独	アニメーション作家	139 140
		デザインⅢB	7	実技	高田浩樹	准教授	単独	デザイン事務所主宰	133 141	
					仲本賢	教授	複数	映像作家	139 142	
					又吉浩	准教授		映像作家		
					赤嶺雅	教授	複数	グラフィックデザイナー、民間企業 （情報通信機械器具製造業、印刷業） デザイン室勤務（1986～1992年）	139 143	
					（インターンシップ）		複数	インターンシップC・D	139	
					工芸専攻	必修科目	主要科目	染Ⅲ	15	実技
名護朝和	教授	染色家								
織Ⅲ	15	実技	真栄城興茂	教授				複数	染織家、織工房主宰	202
			花城美弥子	准教授					染織家	205
陶芸Ⅲ	15	実技	山田聡	教授			複数	陶芸家	223	
			島袋克史	講師				陶芸家		
漆芸Ⅲ	15	実技	糸数政次	教授			複数	漆芸家、県工芸振興センター勤務 （1990～2013年）	246～248	
			水上修	教授				漆芸家		
			當眞茂	准教授				漆芸家		

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
22110	デッサン	1 単位 前期	1	実技	河原 圭佑 早川 信志

■テーマ 人体デッサン

■授業の概要

人体の在り様を形態のある塊として捉え、その動き、繋がりを実際のモデルを使って観察し、鉛筆で描写する。造形表現の基礎となる素描を通して、対象の存在（形態と空間）を把握する確かな観察力と、基礎的な描写力を養う。

■到達目標

- ・ 基礎的な描写力を身につける。
- ・ 対象の形態と空間を把握できる。
- ・ 人体の構造を量塊の構成として捉えることができる。

■授業計画・方法

1. ガイダンス、クロッキー：対象(ヌードモデルの全身)の観察（人体の構造を考える。）
2. クロッキー、デッサン：自然のあり様をフォルム(形態)で捉え、量塊を意識する。
3. デッサン：対象の全体と部分の関係を意識し構図を決める。
4. デッサン：対象を大きなフォルムで捉え、量塊を意識する。
5. デッサン：量塊の構成、連続性によるムーブマン(動勢)を意識する。
6. デッサン：対象の全体と部分の関係、存在する空間を意識する。
7. デッサン：鉛筆の特性を理解し、濃淡からうまれる絵画的表現を理解する。
8. デッサン：プロポーションの違い、位置関係を見直す。
9. デッサン：画面上の全体と部分の関係を意識する。
10. デッサン：観察の重要性を理解し、量塊の構成、連続性によるムーブマン(動勢)を意識する。
11. デッサン：様々な部位が持つ量感、面の成り立ちを意識する。
12. デッサン：鉛筆の濃淡の幅、人体の構造を確認する。
13. デッサン：細部と全体のバランス、量感を意識し観察する。
14. デッサン：作品として高い完成度をを目指す。
15. 講評、自己評価、作品記録

定期試験は実施しない。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・ 日頃から素描用具を携帯し、ドローイング、デッサン等を生活の一部とするよう心がけること。

■成績評価の方法・基準

- ☐ 方法 平常点（制作への取組）40%、成果作品（デッサン）60%による総合評価
- ☐ 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

- ☐ テキスト 特になし
- ☐ 参考資料 『素描論』（岩田弥富、芸大出版会）、学生参考作品

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
22113	彫刻Ⅰ-I	5単位 前期	1	実技	波多野 泉 砂川 泰彦 非常勤講師

■テーマ 彫刻の基礎

■授業の概要

石彫実習、塑造基礎、彫刻作品鑑賞を通して、一般的包括的な彫刻表現の概要を学び、彫刻表現に必要な基礎的造形力を養うとともに、彫刻の基本的な技法を修得する。

■到達目標

- ・観察を通してデッサン力及び基礎的造形力を身につける。
- ・量塊の構成による彫刻の構造を理解する。
- ・石彫及び塑造の基本的技能を習得する。

■授業計画・方法

1. 石彫実習1 「足を彫る」ガイダンス、エスキース粘土塑造制作（担当：砂川）
2. 石彫実習1 鑿づくり（火造り）（担当：砂川）
3. 石彫実習1 石割り、鑿づくり（火造り）（担当：砂川）
4. 石彫実習1 粗彫り：セリ矢による荒落とし（足の構造の観察）（担当：砂川）
5. 石彫実習1 粗彫り：鑿による手彫り手法の習得（担当：砂川）
6. 石彫実習1 スライド及び参考作品鑑賞：日本、アジア、西洋及び琉球王国時代の石造物、彫刻（担当：砂川）
7. 石彫実習1 細部制作：ビシャン、刃トンボの扱い方の習得（担当：砂川）
8. 石彫実習1 細部制作：彫刻作品における全体と部分の関係を理解する。（担当：砂川）
9. 石彫実習1 磨き・仕上げ：作品を深く見つめ、完成度を高める。（担当：砂川）
10. 石彫実習1 講評、自己評価（担当：砂川）
11. 塑造基礎1 デッサン、クロッキー、粘土練り（担当：波多野）
12. 塑造基礎1 首像心棒作り、粘土粗付（担当：波多野）
13. 塑造基礎1 塑造制作：量塊による構成（連続性によるムーブマン（動勢）を理解する。）（担当：波多野）
14. 塑造基礎1 スライド及び参考作品鑑賞：近代以降の日本、西洋の塑造彫刻を中心に鑑賞（担当：波多野）
15. 塑造基礎1 石膏首像：石膏取り（雌型、雄型）（担当：波多野）
16. 塑造基礎2 デッサン、クロッキー、テラコッタ粘土練り（担当：波多野）
17. 塑造基礎2 テラコッタ首像心棒作り、粘土粗付（担当：波多野）
18. 塑造基礎2 テラコッタ塑造直作り（量塊による構成、ムーブマン（動勢）の理解を深める。）（担当：波多野）
19. 塑造基礎2 テラコッタ首像：石膏取り（寄せ型：石膏込め型）（担当：波多野）
20. 塑造基礎1～2 講評、自己評価（担当：波多野）

学部生展（成果発表展）：全体講評、自己評価

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・各実習終了後には指定された場所に作品を提出展示し、自己評価を含めて講評会を行う。
- ・講評会の後、作品の写真等による記録作成を各自で行い、ドローイング・試作・課外制作等の記録もあわせて年度末にファイルとして提出する。

■成績評価の方法・基準

- 方法 平常点（制作への取組）40%、成果作品60%による総合評価
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。
作品の完成度は評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

- テキスト プリント「石膏取り」
- 参考文献 A. Coliva “Bernini Scultore. La Tecnica Esecutiva” De Luca Editori d'Arte、吉村作治（監修）『カイロ博物館 古代エジプトの秘宝』（株）ニュートンプレス、『世界美術大全集』小学館
- 参考資料 本学芸術資料館所蔵作品、学生参考作品

【実習名】 石彫実習1

【期 間】 4月8日(月)～5月17日(金)

【教 室】 石彫室及び石彫場（彫刻棟3）

【担 当】 砂川 泰彦、永澤 嘉務(非)

【課 題】 自分の足を彫る

【授業の概要】（テーマ）彫刻の量塊と構造 「足を彫る」

自身の人体の一部である足をモチーフに、人体の中に大小様々な量を持った「塊」を発見し、その動き繋がりを観察して、基礎的な彫刻の量塊と構造について学ぶ。併せて、対象の観察を通してデッサン力を身につける。また、沖縄の島々を形成し、古来築城など建築材として用いられている琉球石灰岩を、伝統的な石彫技法を用いて彫ることで、沖縄の石造文化・自然歴史を知る端緒とする。

【到達目標】

- ・ 彫刻における量塊と構造を理解する。
- ・ 彫刻作品における全体と部分の関係を理解する。
- ・ 彫刻におけるモデリング modeling とカービング carving の特性を理解する。

【授業計画・方法】

1. ガイダンス、構想：自身の足をモチーフにデッサンを描き構想を練る。
2. エスキース粘土制作：粘土素材の可塑性から生まれる足の持つ造形の美しさや構造を感じ取る。
3. 鑿づくり（火造り）：石鑿づくりをとおして日本の鍛冶技法を体験する。鞆の構造、扱い方を学ぶ。
4. 鑿づくり（火造り）：石鑿の成形から焼き入れなどの一連の鍛冶技法を体験する。
5. 石割り：大きな原石を電動ドリルで割る。電動ドリルやセリ矢の正しい使い方を理解する。
6. 粗彫り：足の構造を観察し、電動ドリル、セリ矢で粗落としする。
7. 粗彫り：コヤスケや鑿で石を彫る手法を習得する。道具の正しい使い方を理解する。
8. 粗彫り：鑿で石を彫る手法を習得する。
9. 粗彫り：彫刻作品における全体と部分の関係を意識する。
10. スライド及び参考作品鑑賞：日本、アジア、西洋の彫刻及び琉球王国時代の石造物、彫刻作品の鑑賞。
11. 細部制作：ビシャン、刃トンボの扱い方を学ぶ。彫刻作品における全体と部分の関係を理解する。
12. 細部制作：ビシャン、刃トンボを使い完成を目指す。彫刻表現におけるカービングの特性を理解する。
13. 磨き：砥石によって研磨され、変化する素材（琉球石灰岩）の美しさを確認し、完成度を高める。
14. 磨き・仕上げ：作品を深く見つめ、完成度を高める。
15. 講評、自己評価とディスカッション、作品記録、後片付け

【成果物】 石彫作品1点

【評価の方法・基準】

- 方法 平常点(制作への取組)40%、成果作品(石彫)60%による総合評価
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。
作品の完成度、独創性は評価する。

【テキスト・参考文献（資料）等】

- 参考資料 学生参考作品

【実習名】 塑造基礎 1

【期 間】 6月18日(火)～7月8日(月)

【教 室】 塑造実習室1 (彫刻棟1)

【担 当】 波多野 泉, 津波 夏希(非)

【課 題】 モデルを使って塑造による頭部制作を行い、石膏像とする。

【授業の概要】(テーマ) 「頭像」彫刻の量塊と構造

人物の頭部を実際のモデルを使って観察し、塑造技法(modeling)により制作を行い、「石膏取り」によって石膏作品を完成させる。塑造による作品制作、彫刻作品鑑賞を通して基礎的かつ一般的包括的な彫刻表現の概要を学ぶ。あわせて、石彫などカービング carving 技法との違いを理解する。

【到達目標】

- ・ 彫刻における量塊と構造を理解する。
- ・ 彫刻作品における全体と部分の関係を理解する。
- ・ 彫刻におけるモデリング modeling とカービング carving の特性を理解する。

【授業計画・方法】

1. ガイダンス、デッサン：対象(モデルの頭部)の観察、心棒の構造を考える。
2. デッサン、心棒制作：自然のあり様をフォルム(形態)で捉え、量塊を意識する。
3. デッサン、粘土練り：対象の全体と部分の関係を意識する。
4. 塑造、粘土粗付け：対象を大きなフォルムで捉え、量塊を意識する。
5. 塑造：量塊による構成、連続性によるムーブマン(動勢)を意識する。
6. 塑造：対象の全体と部分の関係を意識する。
7. 塑造：粘土素材の可塑性を活かし細部まで試作を重ね、モデリングの特性を理解する。
8. スライド及び参考作品鑑賞：近代以降の日本、西洋の塑造彫刻を中心に鑑賞
9. 塑造：彫刻作品における全体と部分の関係を意識する。
10. 塑造：観察による表現における対象と作品の関係を理解する。
11. 石膏取り (雌型制作)：切金打ち、石膏振りかけ、補強入れ、石膏塗り込み
12. 石膏取り (雌型制作)：石膏塗り込み、粘土掻き出し、型乾燥
13. 石膏取り (雄型制作)：離型剤塗布、石膏流し込み、補強 (スタッフ貼り込み)
14. 石膏取り：雌型割り出し、修整、石膏直付け (石膏の特性と扱い方を理解する。)
15. 講評、自己評価とディスカッション、作品記録、後片付け

【成果物】 石膏首像

【評価の方法・基準】

- 方法 平常点 (制作への取組) 40%、成果作品 (石膏像) 60%による総合評価
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。
作品の完成度、独創性は評価する。

【テキスト・参考文献(資料)等】

- テキスト プリント「石膏取り」
- 参考資料 本学芸術資料館所蔵作品、学生参考作品

【実習名】 塑造基礎2

【期 間】 7月9日(火)～30日(火)

【教 室】 塑造実習室1 (彫刻棟1)

【担 当】 波多野 泉, 津波 夏希(非)

【課 題】 モデルを使って塑造による頭部制作を行い、テラコッタ像とする。

【授業の概要】(テーマ)「頭像」彫刻の量塊と構造

人物の頭部を実際のモデルを使って観察し、塑造技法(modeling)により制作を行い、石膏取りの後、込め型技法によりテラコッタ像作品を完成させる。塑造による作品制作、彫刻作品鑑賞を通して基礎的かつ一般的包括的な彫刻表現の概要を学ぶ。あわせて、石彫などカービング carving 技法との違いを理解する。

【到達目標】

- ・ 彫刻における量塊と構造を理解する。
- ・ 彫刻作品における全体と部分の関係を理解する。
- ・ 彫刻におけるモデリング modeling とカービング carving の特性を理解する。

【授業計画・方法】

1. ガイダンス、デッサン：対象(モデルの頭部)の観察、心棒の構造を考える。
2. デッサン、心棒制作：自然のあり様をフォルム(形態)で捉え、量塊を意識する。
3. デッサン、粘土練り：対象の全体と部分の関係を意識する。
4. 塑造、粘土粗付け：対象を大きなフォルムで捉え、量塊を意識する。
5. 塑造：量塊による構成、連続性によるムーブマン(動勢)を意識する。
6. 塑造：対象の全体と部分の関係を意識する。
7. 塑造：粘土素材の可塑性を活かし細部まで試作を重ね、モデリングの特性を理解する。
8. スライド及び参考作品鑑賞：近代以降の日本、西洋の塑造彫刻を中心に鑑賞
9. 塑造：彫刻作品における全体と部分の関係を意識する。
10. 塑造：観察による表現における対象と作品の関係を理解する。
11. 石膏取り（寄せ型制作）：切金打ち、石膏振りかけ、補強入れ、石膏塗り込み
12. 石膏取り（寄せ型制作）：石膏塗り込み、粘土掻き出し
13. テラコッタ制作（型込め）：雌型（寄せ型）にテラコッタ粘土型込め
14. テラコッタ制作（型外し）：雌型を外し粘土乾燥（後日焼成）
15. 講評、自己評価とディスカッション、作品記録、後片付け

【成果物】 テラコッタ首像

【評価の方法・基準】

- 方法 平常点（制作への取組）40%、成果作品（石膏像）60%による総合評価
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。
作品の完成度、独創性は評価する。

【テキスト・参考文献（作品）等】

- テキスト プリント「石膏取り」
- 参考資料 本学芸術資料館所蔵作品、学生参考作品

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
22114	彫刻Ⅰ－Ⅱ	7単位 前期	1	実技	波多野 泉 長尾 恵那 非常勤講師

■テーマ 彫刻の基礎

■授業の概要

彫刻Ⅰ－Ⅱの実習経験を踏まえ、木彫実習、塑造基礎、彫刻作品鑑賞を通して、一般的包括的な彫刻表現の概要を学び、彫刻表現に必要な基礎的造形力を養うとともに、彫刻の基本的な技法を習得する。

■到達目標

- ・観察を通してデッサン力及び基礎的造形力を身につける。
- ・彫刻の量塊と構造について理解する。
- ・木彫及び塑造の基本的技能を習得する。

■授業計画・方法

1. 木彫実習1 (照葉樹の葉)：ガイダンス、道具作り、鑿研ぎ (担当：A)
2. 木彫実習1 鑿研ぎ、木取り (担当：A)
3. 木彫実習1 木取り～粗彫り：大鋸、両刃鋸の使い方習得、取り扱いの理解 (担当：A)
4. 木彫実習1 粗彫り：鑿の使い方習得 (担当：A)
5. 木彫実習1 こなし：全体と部分の関係の理解 (担当：A)
6. 木彫実習1 小造り：鑿の扱い方習得、道具の管理方法 (手入れ) の理解 (担当：A)
7. 木彫実習1 仕上げ：彫刻刀の使い方習得、作品の密度 (担当：A)
8. 木彫実習1 着色、仕上げ：胡粉等 (担当：A)
9. 木彫実習1 講評、自己評価 (担当：A)
10. 塑造実習1 (等身立像)：人体クロッキー、デッサン、心棒制作 (担当：波多野)
11. 塑造実習1 デッサン、心棒制作、粘土練り (担当：波多野)
12. 塑造実習1 デッサン、粘土粗付け (担当：波多野)
13. 塑造実習1 塑造制作：重心と動勢 (担当：波多野)
14. 塑造実習1 塑造制作：量塊の構築 (担当：波多野)
15. 塑造実習1 塑造制作：全体の構造 (担当：波多野)
16. 塑造実習1 塑造制作：全体と部分 (担当：波多野)
17. 石膏取り実習：雌型・雄型 (担当：波多野)
18. 塑造実習1 講評、自己評価 (担当：波多野)

1年生展 (成果発表展)：全体講評

■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

- ・各実習終了後には指定された場所に作品を提出展示し、自己評価を含めて講評会を行う。
- ・講評会の後、作品の写真等による記録作成を各自で行い、ドローイング・試作・課外制作等の記録もあわせて年度末にファイルとして提出する。

■成績評価の方法・基準

- 方法 平常点 (制作への取組) 40%、成果作品 60%による総合評価
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。
作品の完成度、独創性は評価する。

■教科書・参考文献 (資料) 等

- テキスト プリント「石膏取り」
- 参考文献 小原二郎『木の文化』鹿島出版会、Marino Manini『MARINO MARINI』Edi-Albra
- 参考資料 学生参考作品

【実習名】 木彫実習 1

【期 間】 10月1日(火)～11月22日(金)

【教 室】 木彫室 (彫刻棟2)

【担 当】 長尾 恵那

【課 題】 沖縄に自生する照葉樹 (常緑広葉樹) の葉

【授業の概要】 (テーマ) 木彫技法の習得 (基礎編)

沖縄に自生する照葉樹 (常緑広葉樹) の葉をモチーフにして、樟材 (約 60×30×10cm) を彫り、着彩して作品とする。

【到達目標】

- ・ 木彫素材と道具の特性を理解し、木彫の基本的技能を習得する。
- ・ 一定の完成度 (技術力) のある作品を制作できる。

【授業計画・方法】

1. ガイダンス、構想計画、道具づくり：冠(かつら)仕込み
2. 鑿研ぎ：平鑿裏出し・裏押し、平鑿研ぎ 表 (＃800・＃1000・＃1200・仕上砥) 裏 (仕上砥)
3. 鑿研ぎ：丸鑿研ぎ 内 (棒砥石・溝砥石) 玄能柄挿げ
4. 原木胴割り：大鋸縦挽き (大鋸の使い方習得)
5. 木取り：大きな面の把握 (大鋸・両刃鋸の使い方、素材 (樟) の特性の理解)
6. 粗彫り：大きな形態の把握 (鋸と鑿を的確に使う)
7. 粗彫り：量塊と構築の理解 (道具の手入れ、管理)
8. こなし：全体と部分の関係確認 (鑿使い習得)
9. こなし：彫り進める。(作品構想の確認)
10. こなし：作品における全体と部分の関係の理解
11. 小造り：全体と部分の関係を理解する。(彫刻刀の扱い方を学ぶ。)
12. 小造り：細部、作品の密度、(素材の特性を理解する。)
13. 仕上げ：彫刻刀の扱い方、研ぎ方の技術を高める。
14. 着彩・仕上げ：胡粉等を使用し、完成度を高める。
15. 講評、作品記録、後片付け

1 年生展 全体講評

【成果物】 木彫作品

【評価の方法・基準】

- 方法 平常点 (制作への取組) 40%、成果作品 (石彫) 60%による総合評価。
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。
作品の完成度、独創性は評価する。

【テキスト・参考文献 (資料) 等】

- 参考文献 『木の文化』 (小原二郎, 鹿島出版会)
- 参考資料 学生参考作品

【実習名】 塑造実習1、石膏取り実習

【期 間】 11月25日(月)～1月30日(木)

【教 室】 塑造室3 (彫刻棟1-1階)

【担 当】 波多野 泉、津波 夏希(非)、井野 雅文(非／石膏取り)

【課 題】 等身塑造 (全身立像)

【授業の概要】 (テーマ) 人体塑造

自然のひとつである人体を、実際のモデルを使って観察し制作することを通して、人体彫刻の基本要素としての量塊と構造、ムーブマン(動勢)を理解し、全体と細部の調和の取れた作品を完成させる。また、「人間」を彫刻で表現することについて考える端緒とする。

【到達目標】

- ・ 観察を通してデッサン力及び基礎的造形力を身につける。
- ・ 人体彫刻の基本要素としての量塊と構造を理解する。
- ・ 塑造の基本的技能を習得する。
- ・ 石膏取りの基本的技能を習得する。

【授業計画・方法】

1. ガイダンス、クロッキー：モデルの観察、ポーズの選定、心棒の構想
2. デッサン、心棒制作：自然のあり様をフォルム(形態)で捉え、量塊、ムーブマンを理解する。
3. デッサン、粘土練り：対象の全体と部分の関係を理解する。
4. 塑造、粘土粗付け：対象に大きなフォルムを発見し、人体を量塊の構築、ムーブマンで捉える。
5. 塑造：量塊による構成、連続性によるムーブマンを理解する。
6. 塑造：対象の全体と部分の関係を意識する。
7. 塑造：粘土素材の可塑性を活かし細部まで試作を重ね、モデリングの特性を理解する。
8. スライド及び参考作品鑑賞と考察：近代以降の日本、西洋の塑造彫刻を中心に
9. 塑造：作品における全体と部分の関係を理解する。
10. 塑造：観察による表現における対象と作品の関係を理解する。
11. 石膏取り(雌型)：切金打ち、石膏振りかけ、補強入れ、石膏塗り込み
12. 石膏取り(雌型)：石膏塗り込み、粘土掻き出し
13. 石膏取り(雄型)：離型剤塗布、石膏流し込み、補強(スタッフ貼り込み)
14. 石膏取り(雄型)：雌型割り出し、修正 (石膏の特性と扱い方を理解する。)
15. 講評、自己評価とディスカッション、作品記録、後片付け

1年生展 全体講評

【成果物】 等身石膏像

【評価の方法・基準】

- 方法 平常点(制作への取組)40%、成果作品(石膏像)60%による総合評価。
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。
作品の完成度、独創性は評価する。

【テキスト・参考文献(資料)等】

- テキスト プリント「石膏取り」、Marino Manini "MARINO MARINI" Edi-Albra
- 参考資料 学生参考作品

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
22213	彫刻Ⅱ－Ⅰ	6単位 通年	2	実技	波多野 泉 長尾 恵那

■テーマ 彫刻の基礎

■授業の概要

自然観察による塑造制実習を通して基礎的な造形力を養う。また、木彫実習において、与えられたテーマを基に発想を広げ、彫刻素材の特性を理解し課題制作を行う。その過程で彫刻表現に必要な基礎的な造形力を養い、実材制作の基本的な技能の修練のなかで、素材・技法への自己の適性を探る。

■到達目標

- ・課題制作を通してデッサン力及び基礎的な造形力を身につける。
- ・木彫、塑造の基本的技能を習得し、彫刻素材の特性の理解を深める。
- ・課題テーマのなかで発想を広げ構想し、制作を展開できる。

■授業計画・方法

1. 木彫実習2 ガイダンス、作品構想（実物大ドローイング・デッサン等）、道具作り、鑿研ぎ（担当：A）
2. 木彫実習2 鑿研ぎ、原木胴割り、木取り（担当：A）
3. 木彫実習2 粗彫り：大きな構成による粗彫り。鑿で木を彫る手法、各種工具の使い方を習得する。（担当：A）
4. 木彫実習2 こなし：全体と部分の関係、彫刻における量塊と構造を理解する。（担当：A）
5. 木彫実習2 細部の制作：素材の特性の理解（担当：A）
6. 木彫実習2 細部の制作：彫刻刀の扱い方、研ぎ方の技術を高める。（担当：A）
7. 木彫実習2 着色・仕上げ（担当：A）
8. 木彫実習2 講評、自己評価とディスカッション、作品記録（担当：A）
9. 塑造実習2（等身像）：ガイダンス、人体クロッキー、デッサン：対象の観察、心棒の構造（担当：波多野）
10. 塑造実習2 デッサン、心棒制作：フォルム（形態）のある量塊と構造の発見（担当：波多野）
11. 塑造実習2 粘土粗付け（担当：波多野）
12. 塑造実習2 スライド及び参考作品鑑賞：近代以降の日本、西洋の塑造彫刻を中心に鑑賞（担当：波多野）
13. 塑造実習2 観察による表現（対象と作品の関係の理解）（担当：波多野）
14. 塑造実習2 石膏雌型取り実習（担当：波多野）
15. 塑造実習2 ポリ取り実習（担当：波多野）
16. 塑造実習2 講評、自己評価とディスカッション、作品記録（担当：波多野）

学部生展（成果発表展）：全体講評

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・各実習終了後には指定された場所に作品を提出展示し、自己評価を含めて講評会を行う。
- ・講評会の後、作品の写真等による記録作成を各自で行い、ドローイング・試作・課外制作等の記録もあわせて年度末にファイルとして提出する。

■成績評価の方法・基準

- 方法 平常点（制作への取組）40%、成果作品 60%による総合評価
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。
作品の完成度、独創性は評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

- テキスト プリント「石膏取り」
- 参考文献 西岡常一、小原二郎『法隆寺を支えた木』NHK出版、小原二郎『木の文化』鹿島出版会、"MARINO MARINT" Edi-Albra
- 参考資料 本学芸術資料館所蔵作品、学生参考作品

【実習名】 木彫実習 2

【期 間】 4月8日(月)～5月24日(金)

【教 室】 木彫室 (彫刻棟 2)

【担 当】 長尾 恵那

【課 題】 「生 (LIVE)」をテーマにして自由な発想で作品構想を練る。素材は樟原木 180×径 60 cm×1/4 を基準サイズとする。

【授業の概要】 (テーマ) 木彫技法の習得 (中級編)

- ・ 1 年前期木彫 (木彫技法基礎篇) につづき中級篇として、木彫材料・道具の取り扱いについて学ぶ。
- ・ 「木」に対する日本の伝統意識を考察しながら、木彫における彫刻表現の可能性を探る。
- ・ テーマを咀嚼しながら自己表現の幅の拡張を目指す。

【到達目標】

- ・ 彫刻素材の特性を理解し、木彫の基本的技能を習得する。
- ・ 内容 (芸術性) のある作品を制作できる。
- ・ 一定の完成度 (技術力) のある作品を制作できる。
- ・ 課題テーマのなかで発想を広げ制作を展開できる。

【授業計画・方法】

1. ガイダンス、作品構想発表 (実物大ドローイング・デッサン・マケット)
2. 作品構想：一人一人の構想に合わせて制作の進め方を指示する。
3. 原木搬入、鋸引き：原木胴割り (縦挽き)
4. 木取り：大鋸の正しい使い方を理解する。樟材の特性を理解する。
5. 粗彫り：大きな構成で荒彫りをする。チェーンソーの使い方を習得する。
6. 荒彫り：電気木工ドリル道具等の正しい使い方を理解する。
7. 荒彫り：鑿や工具の扱い方や手入れ、保管を理解する。
8. こなし：鑿で木を彫る手法を理解、習得する。作品構想の確認。
9. こなし：作品における全体と部分の関係を意識する。
10. こなし：彫刻における量塊と構築性を理解する
11. 細部を制作：彫刻刀の扱い方を学ぶ。彫刻作品における全体と部分の関係を理解する。
12. 細部を制作：素材の特性を知り、彫り進める。
13. 細部を制作：彫刻刀の扱い方、研ぎ方の技術を高める。
14. 着彩・仕上げ：胡粉・他を使用し、完成度を高める。
15. 講評、作品記録、掃除

【成果物】 ドローイング／マケット／木彫作品 1 点／レポート (制作意図等)

【評価の方法・基準】

□ 方法 平常点 (制作への取組) 30%、成果作品 (石彫) 70%による総合評価

□ 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。
作品の完成度、独創性は評価する。

【テキスト・参考文献 (資料) 等】

□ 参考文献 『法隆寺を支えた木』 (西岡常一、小原二郎、NHK出版)、『木の文化』 (小原二郎、鹿島出版会)

【実習名】 塑造基礎2、ポリ取り実習

【期 間】 5月27日(月)～7月8日(月) 11月11日(月)～11月15日(金)

【教 室】 塑造室3、塑造室1 (彫刻棟1-1階)

【担 当】 波多野 泉、津波 夏樹(非)

【課 題】 人体塑造 (1/2 等身像)

【授業の概要】(テーマ) 人体塑造

- ・ 実際のモデルを観察し人体デッサンと塑造による人体制作を行い、石膏型取りの後、FRP 像とする
- ・ 自然のひとつである人体を観察し制作することを通して、人体彫刻の基本要素としての量塊と構造、ムーブマン(動勢)を理解し、全体と細部の調和の取れた作品を完成させる。
- ・ 「人間」を彫刻で表現することについて考える。

【到達目標】

- ・ 観察を通してデッサン力及び基礎的造形力を身につける。
- ・ 人体彫刻の基本要素としての量塊と構造を理解する。
- ・ 可塑性材料の特性を理解し、塑造の基本的技能を習得する。
- ・ 石膏取り及びFRP 制作の基本的技能を習得する。

【授業計画・方法】

1. 人体クロッキー、デッサン：対象の観察、心棒の構造
2. デッサン、心棒制作：フォルム(形態)のある量塊と構造の発見
3. デッサン、粘土練り：対象の全体と部分の関係
4. 塑造、粘土粗付け：対象を大きなフォルムで捉え、量塊を意識する。
5. 塑造：量塊による構成、連続性によるムーブマン(動勢)を意識する。
6. 塑造：対象の全体と部分の関係を意識する。
7. 塑造：粘土素材の可塑性を活かし細部まで試作を重ね、モデリングの特性を理解する。
8. スライド及び参考作品鑑賞：近代以降の日本、西洋の塑造彫刻を中心に鑑賞
9. 塑造：彫刻作品における全体と部分の関係を意識する。
10. 塑造：観察による表現における対象と作品の関係を理解する。
11. 石膏取り(雌型制作)：切金打ち、石膏振りかけ、補強入れ、石膏塗り込み、石膏塗り込み、粘土掻き出し
12. 石膏取り(雄型制作)：離型剤塗布、石膏流し込み、雌型割り出し、修正(石膏の特性と扱い方を理解する。)
13. ポリ取り実習：離型剤塗布、FRP 一層、ガラスマット、FRP 塗り込み
14. ポリ取り実習：雌型割り出し、修正、着色
15. 講評、自己評価とディスカッション、作品記録、後片付け

【成果物】 FRP 人体像1体、人体デッサン1枚(木炭紙大)、クロッキー(1冊以上)

【評価の方法・基準】

- 方法 平常点(制作への取組)40%、成果作品(石膏像)60%による総合評価
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。
作品の完成度、独創性は評価する。

【テキスト・参考文献(資料)等】

- テキスト プリント「石膏取り」
- 参考資料 本学芸術資料館所蔵作品、学生参考作品

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
22214	彫刻Ⅱ-Ⅱ	6単位 後期	2	実技	砂川 泰彦 河原 圭佑

■テーマ 彫刻の基礎

■授業の概要

金属、石彫実習において、与えられたテーマを基に発想を広げ、彫刻素材の特性を理解し課題制作を行う。その過程で彫刻表現に必要な基礎的造形力を養い、実材制作の基本的な技能の修練のなかで、素材・技法への自己の適性を探る。

■到達目標

- ・課題制作を通してデッサン力及び基礎的造形力を身につける。
- ・金属制作、石彫の基本的技能を習得し、彫刻素材の特性の理解を深める。
- ・課題テーマのなかで発想を広げ構想し、制作を展開できる。

■授業計画・方法

1. 金蔵実習1 作品の構想(担当:河原)
2. 金属実習1 溶接技能講習(担当:河原)
3. 金属実習1 溶断、溶接の基本技術の習得(担当:河原)
4. 金属実習1 制作:金属彫刻における構造と重心、バランスの関係を理解する。(担当:河原)
5. 金属実習1 制作、スライド及び参考作品鑑賞 -- 近代以降の日本、欧米の金属彫刻を中心に鑑賞(担当:河原)
6. 金属実習1 制作:溶接・溶断・切断・研磨等の加工技術、鉄の特性を理解する。(担当:河原)
7. 金属実習1 仕上げ:腐蝕・着色(サビ付け、黒鉛付け、研磨による磨き)(担当:河原)
8. 金属実習1 講評、自己評価とディスカッション、作品記録(担当:河原)
9. 石彫実習2 道具作り、石割り(担当:砂川)
10. 石彫実習2 粗彫り、ガンダーラ仏頭等の鑑賞(担当:砂川)
11. 石彫実習2 粗彫り:電動工具、セリ矢の正しい使い方を理解する。(担当:砂川)
12. 石彫実習2 粗彫り:コヤスケ、鑿の扱いを理解する。(担当:砂川)
13. 石彫実習2 スライド及び参考作品鑑賞:日本、アジア、西洋及び琉球王国時代の石造物、彫刻(担当:砂川)
14. 石彫実習2 細部:ビシャン、刃トンボの扱いを習得。カービングの特性を理解する。(担当:砂川)
15. 石彫実習2 仕上げ:磨き等、彫刻作品における全体と部分の関係を理解する。(担当:砂川)
16. 石彫実習2 講評、自己評価とディスカッション、作品記録(担当:砂川)

2年生展(成果発表展):全体講評

■履修上の留意点(授業以外の学習方法を含む)

- ・各実習終了後には指定された場所に作品を提出展示し、自己評価を含めて講評会を行う。
- ・講評会の後、作品の写真等による記録作成を各自で行い、ドローイング・試作・課外制作等の記録もあわせて年度末にファイルとして提出する。

■成績評価の方法・基準

- 方法 平常点(制作への取組)40%、成果作品60%による総合評価
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。
作品の完成度、独創性は評価する。

■教科書・参考文献(資料)等

- 教科書 厚生労働省安全課編『アーク溶接等作業の安全』中央労働災害防止協会(入手方法は指示する。)
- 参考文献 A. Coliva “Bernini Scultore. La Tecnica Esecutiva” De Luca Editori d'Arte
- 参考資料 本学芸術資料館所蔵作品、学生参考作品

【実習名】 金属実習 1

【期 間】 10月1日(火)～11月8日(金)

【教 室】 金属工房(彫刻棟2)、金属実習室(彫刻棟3)

【担 当】 河原 圭佑、吉田 香世(非)

【課 題】 「昆虫」の制作

【授業の概要】(テーマ) 「昆虫」を鋼材(鉄)で表現する。

- ・ 鋼材(鉄)の加工技術において、金属素材や精密機械工具の使用方法について学ぶ。
- ・ 自由な発想でテーマ設定し、素材と表現との関連性へ認識を深め、計画の構想から実践を通して独創的な作品制作に取り組む。
- ・ 作品についてのディスカッションを適宜全体で行い、作品制作過程における個々の問題点などを論じ合う。

【到達目標】

- ・ 鋼材(鉄)の特性を理解し、溶接・溶断・切断・研磨・鍛造等の金属造形の基本的な技法を習得する。
- ・ ガス、アーク溶接や大型工作機械の操作など金属工房機材の使用における安全知識を身につける。
- ・ テーマをもとに発想を広げ、素材の特性を活かし制作することができる。
- ・ 課題制作におけるプレゼンテーションや講評会での言語によるコミュニケーション能力を高める。

【授業計画・方法】

1. ガイダンス、ドローイング – 昆虫をモチーフとして自由に構造を考える。
 2. ドローイング、プレゼンテーション – ドローイングから構築した昆虫のイメージを発表する。
 3. 鋼材(鉄)加工/溶接 – 溶接技術を習得し、鉄を溶接しながら対象の構成を意識する。
 4. 鋼材(鉄)加工/溶断 – 溶断技術を習得し、鉄を溶断しながら対象の量塊を意識する。
 5. 鋼材(鉄)加工/精密機械工具および大型工作機械 – 作業の効率化を図るための確な機械を識別する。
 6. 溶接技能講習 – 金属造形の高度な技法を習得するとともに金属工房機材の使用における安全知識を身につける。
 7. 制作 – 制作対象のイメージに合う鋼材(鉄)を採求する。
 8. 制作 – 鋼材(鉄)の選定、作品サイズを決定する。
 9. 制作 – 溶接・溶断・切断・研磨・鍛造等の加工技術を駆使して、鉄の特性を理解する。
 10. 制作 – 金属彫刻における構造と重心、バランスの関係を意識する。
 11. 制作 – ドローイングを確認し、表現における対象と作品の関係を理解する。
 12. 制作/スライド及び参考作品鑑賞 – 近代以降の日本、欧米の金属彫刻を中心に鑑賞
 13. 制作 – 実践を通して独創的な鉄の表現や作品の構成を意識する。
 14. 制作 – 腐蝕・着色作業(サビ付け、黒鉛付け、研磨による磨き)
 15. 講評、自己評価とディスカッション、作品記録、掃除
- ※ 「溶接技能講習」を必ず受講すること。詳細は授業中に教示する。

【成果物】 ドローイング1点、課題作品1点

【評価の方法・基準】

- 方法 平常点(制作への取組) 40%、成果作品(ドローイング1点、課題作品1点) 60%による総合評価
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。
作品の完成度、独創性は評価する。

【テキスト・参考文献(資料)等】

- 教科書 『アーク溶接等作業の安全』厚生労働省安全課編(中央労働災害防止協会) (入手方法は指示する。)
- テキスト プリント「鍛造の金属造形の技法」
- 参考資料 本学芸術資料館所蔵作品、学生参考作品

【実習名】 石彫実習 2

【期 間】 11月18日(月)～1月30日(木)

【教 室】 石彫室及び石彫場 (彫刻棟3)

【担 当】 砂川 泰彦、永澤 嘉務(非)、平敷 傑 (非)

【課 題】 友人の頭部

【授業の概要】(テーマ)

- ・ 硬質石材(久米島安山岩)を使用してヒトの頭像作品を制作する。
- ・ 人体頭部の骨格や構成をよく観察し、面・量感・構造などの彫刻要素の理解を目指す。
- ・ 石彫で使用する石鑿、セトウなどの道具作りと荒彫りから仕上げまでの工程を学び、石彫技法の習得を目指す。

【到達目標】

- ・ 観察を通してデッサン力及び基礎的造形力を身につける。
- ・ 具象彫刻の基本要素としての量塊と構造を理解する。
- ・ 石彫の基本的技能を習得する。

【授業計画・方法】

1. 課題説明、原石割り：コンプレッサーを使ったエアーツールドリル、セリ矢の使い方を学ぶ。
2. 鍛冶(鑿作り)：石鑿づくりをととして日本の鍛冶技法を体験する。鞆の構造、扱い方を学ぶ。
3. 鍛冶(鑿作り)、マケット制作：石鑿の成形から焼き入れなどの一連の鍛冶技法を習得する。
4. 石彫作品鑑賞：ガンダーラ彫刻、円覚寺放生橋、玉陵の見学
5. 粗彫り：大きな原石を電動ドリルで割る。電動ドリルやセリ矢の正しい使い方を理解する。
6. 粗彫り：粘土エスキースを基に電動ドリルで足の持つ大きく形を割る。
7. 粗彫り：コヤスケや鑿で石を彫る手法を理解、習得する。道具の正しい使い方を理解する。
8. 粗彫り：鑿で石を彫る手法を理解、習得する。作品の構想の確認。
9. 粗彫り：彫刻作品における全体と部分の関係を意識する。
10. スライド及び参考作品鑑賞：日本、アジア、西洋の彫刻及び琉球王国時代の石造物、彫刻作品の鑑賞。
11. 細部制作：ビシャン、刃トンボの扱い方を学ぶ。彫刻作品における全体と部分の関係を理解する。
12. 細部制作：ビシャン、刃トンボを使い完成を目指す。彫刻表現におけるカービングの特性を理解する。
13. 細部制作：粗砥石によって研磨され、変化する素材(久米島安山岩)の美しさを確認し、完成度を高める。
14. 磨き・仕上げ：作品を深く見つめ、完成度を高める。
15. 講評、自己評価とディスカッション、作品記録、掃除

【成果物】 ドローイング、石彫作品1点

【評価の方法・基準】

□ 方法 平常点(制作への取組)40%、成果作品(石彫)60%による総合評価

□ 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。
作品の完成度、独創性は評価する。

【テキスト・参考文献(資料)等】

□ 参考資料 学生参考作品

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
22215	構成	1 単位 後期	2	実技	河原 圭佑

■テーマ 立体構成

■授業の概要

金属素材（鉄）を用いて立体構成を行う。単純な要素を用いて構成デザインする中で、形体や色彩、材質などの効果的な使い方を考え、構造や機能を工夫して美的秩序を意図した立体の構成表現能力を高める。その上で、造形芸術を成立させる形体の性質と空間に果たす視覚的效果等について理解を深め、構成表現の可能性を追究する。

■到達目標

- ・課題制作を通して、平面的、立体的に構成する能力を身につける。
- ・金属素材の特性を理解する。
- ・金属制作の基本的技能を習得する。
- ・課題制作のなかで発想を広げ構想し、制作を展開できる。

■授業計画・方法

1. (導入) ガイダンス、ドローイング、作品構想
2. 平面構成(制作) 構成における分割や配置、配色を工夫して図面を作成する。
3. 平面構成(制作) 図面を参考に、型紙模型を作成する。
4. 平面構成(作品プレゼンテーション)
5. 立体構成(制作) アーク溶接技能講習 - 溶接技術を習得し、鉄を溶接しながら対象の構成を意識する。
6. 立体構成(制作) 技法/切断
7. 立体構成(制作) 技法/削り
8. 立体構成(制作) 技法/磨き
9. 立体構成(制作) ドローイングを確認し、表現における対象と作品の関係を理解する。
10. 立体構成(制作) 切断、削り、磨き等の加工技術を駆使して、材料の特性を理解する。
11. (鑑賞) スライド及び参考作品鑑賞 - 形体や色彩に見られる構成や構造の工夫、材料や技法の活用及び効果
12. 立体構成(制作) 材質などの効果的な使い方を考え、構造や機能を工夫する。
13. 立体構成(制作) 立体構成における構造と重心、バランスの関係を意識する。
14. 立体構成(制作) 錆止め、着色
15. 立体構成(講評) 自己評価とディスカッション、作品記録
定期試験は実施しない。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・実習終了後には指定された場所に作品を提出展示し、自己評価を含めて講評会を行う。
- ・講評会の後、作品の写真等による記録作成を各自で行い、ドローイング・試作・課外制作等の記録もあわせて年度末にファイルとして提出する。

■成績評価の方法・基準

- ☐ **方法** 平常点（制作への取組）40%、成果作品（ドローイング1点、課題作品1点）60%による総合評価
- ☐ **基準** 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。
作品の完成度、独創性は評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

- ☐ **参考文献** 朝倉直巳『紙による構成・デザイン』美術出版社、厚生労働省安全課編『アーク溶接等作業の安全』中央労働災害防止協会、『金属材料活用事典』産業調査会事典出版センター
- ☐ **参考資料** 学生参考作品

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
22311 22312	彫刻Ⅲ	14 単位 通年 13 単位 通年	3	実技	波多野 泉 河原 圭佑 早川 信志 砂川 泰彦 長尾 恵那 非常勤講師

※平成 28 年度以前の入学者は「22311」を登録すること。平成 29 年度以降の入学者は「22312」を登録すること。

■テーマ 素材、技法の応用と表現

■授業の概要

展示発表を前提とした制作のなかで、素材・技法への自己の適性を深く追究する。その過程で、自らのテーマ創出と実験的・独創的な作品制作を積極的に試行し、彫刻表現の実際について学び表現の可能性を探る。

■到達目標

- ・ 彫刻素材の特性を理解し、テラコッタ及び金属彫刻の基本的技能を習得する。
- ・ 作品制作、設置における安全知識を身につける。
- ・ 実制作、設置発表の経験を通して、「野外彫刻」「モニュメント」「パブリックアート」「環境造形」「彫刻の社会性」について理解し、一定の見解を論述できるようになる。

■授業計画・方法

1. テラコッタ実習：課題説明、糸満市・北中城村テラコッタ設置状況視察
2. テラコッタ実習：土作り、シャモット作り、水簸、混練
3. テラコッタ実習：粘土積み上げ／素材の特性、粘土の乾燥を考慮し造形を進める。
4. テラコッタ実習：焼成、修正、台座づくり（窯組み・窯崩し）（焼成の温度管理、窯組技術の習得）
5. テラコッタ実習：講評
6. 金属実習 2：ガイダンス、ドローイング（プレゼンテーション：作品構想の発表）
7. 金属実習 2：非鉄金属実習（ステンレススチール、アルミニウム、銅、真鍮の知識を習得する。）
8. 金属実習 2：制作（小型工具、大型工作機械等金属工房機器の扱いを習得する。）
9. 金属実習 2：スライド及び参考作品鑑賞（東南アジアの金属彫刻を中心に）
10. 金属実習 2：フィニッシュワーク 腐蝕・着色作業（サビ付け、黒鉛付け、研磨による磨き）
11. 金属実習 2：講評
学部生展：全体講評
12. シリコン取り実習、鋳造実習
14. 制作 A（課題設定）：ドローイング、マケット制作、各分野の教員と相談後プレゼンテーション
15. 制作 A（小～中作品制作）：素材・技法の選択、素材研究
16. 制作 A：（フィニッシュワーク）：展示計画
17. 制作 B（中～大作品制作）：ドローイング、マケット制作、各分野の教員と相談後プレゼンテーション
18. 制作 B：素材・技法研究（素材の特性の理解）
19. 制作 B：表現の充実、展示計画構想
20. 制作 B：フィニッシュワーク、展示計画
3年生展：全体講評

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・ 焼成に係る作業は学年を越えて協働で行う。
- ・ 講評会の後、作品の写真等による記録作成を各自で行い、デッサン・ドローイング・試作・課外制作等の記録もあわせて年度末にファイルとして提出する。

■成績評価の方法・基準

- ☐ 方法 平常点（制作への取組）40%、成果作品 60%による総合評価
- ☐ 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

- ☐ テキスト プリント「非鉄金属の知識」
- ☐ 参考文献 水沢勉 他（編）『空間に生きる・日本のパブリックアート』空間造形コンサルタント、安斎重男『現代日本の野外彫刻』講談社、竹田直樹『日本の彫刻設置事業-モニュメントとパブリックアート』公人の友社
- ☐ 参考資料 本学芸術資料館所蔵作品、学生参考作品

【実習名】 テラコッタ実習

【期 間】 4月8日(月)～5月17日(金) 7月22日(月)～31日(水) 8～9月(焼成)

【教 室】 多目的実習室(彫刻棟3)

【担 当】 砂川 泰彦、早川 信志、非常勤講師

【課 題】 テラコッタ野外彫刻

【授業の概要】 (テーマ)屋外設置を前提にした彫刻制作

- ・ 一人1t程度の土を準備し、公園等の公共空間への永久設置を想定した造形物を構想し実作する。
- ・ 制作にあたっては土を実材と捉え、大量の土と格闘しながら土との“対話”を試み、彫刻素材としての土の発する“ことば”を聞く。
- ・ 原土精製から成形・乾燥を経て築窯・焼成・崩窯・修整・設置等一連の工程を学年全員の協働で行う。
- ・ 実制作を通して「野外彫刻」「モニュメント」「パブリックアート」「環境造形」「彫刻の社会性」のあり方等について考察する。

【到達目標】

- ・ 彫刻素材の特性を理解し、テラコッタ彫刻制作の基本的技能を習得する。
- ・ 内容(芸術性)のある作品が制作できる。
- ・ 一定の完成度(技術力)を上げられる。
- ・ 実制作を通して「野外彫刻」「モニュメント」「パブリックアート」「環境造形」「彫刻の社会性」について理解し、そのあり方について一定の見解を論述できる。

【授業計画・方法】

1. 課題説明、糸満市・北中城村テラコッタ設置状況視察、「野外彫刻」「パブリックアート」のあり方についての考察
2. 土作り
3. シャモット作り2t:混練(赤土50%+クチャ50%+粃殻)→乾燥→焼成(900°)→粉碎(ランマー)→ふるい
4. 水簀/5t:赤土原土を水に溶かした後、メッシュで濾過し石灰岩細石を除去。トン袋に充填し水切り
5. 混練/7t:赤土(水簀済)40%+クチャ40%+シャモット20%=100kg(大型土練機一回分)
6. 構想発表(マケット・ドローイング)、プレゼン→制作開始
7. 作品下部テラコッタ粘土積み上げ
8. 粘土を積み上げながら形を整える。自重と作品構造を検討する。
9. 粘土を積み上げる。素材の特性を考慮し、造形する。
10. 粘土の乾燥と強度から、作品の制作進行を検討する。
11. 彫刻として量塊と構造を確認する。
12. 乾燥に気を付けて積み上げ、造形する。
13. 素材の特性を理解し、細部制作を行なう。
14. 成形終了→自然乾燥一ヶ月間、焼成前除湿機乾燥2週間。粘土素材の特性を理解する。
15. 焼成、修正、台座づくり…窯組み・窯崩し(全員)。焼成の温度変化、窯組技術の習得を目指す。
学内発表(崎山キャンパス中庭)、講評

【成果物】 テラコッタ作品1点/レポート1点

【評価の方法・基準】

- 方法 平常点(制作への取組)40%、成果作品(テラコッタ作品)60%による総合評価
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

【テキスト・参考文献(資料)等】

- 参考文献 学生参考作品

【実習名】 金属実習 2

【期 間】 6月10日（月）～7月19日（金）

【教 室】 金属工房（彫刻棟2）、金属実習室（彫刻棟3）

【担 当】 河原圭佑、吉田 香世（非）

香世（非）

【課 題】 金属（非鉄金属を含む）素材による作品制作

【授業の概要】 （テーマ）各自のテーマによる。

- ・ 金属の加工技術において、非鉄金属材料や精密機械工具の使用方法について学ぶ。
- ・ 自由な発想でテーマ設定し、自らのテーマ創出と実験的・独創的な作品制作を積極的に試行し、彫刻表現の実践について学びその可能性を探る。
- ・ 作品についてのディスカッションを適宜全体で行い、作品制作過程における個々の問題点などを論じ合う。

【到達目標】

- ・ 非鉄金属（ステンレススチール、アルミニウム、銅、真鍮）の知識を修得する。
- ・ 金属素材の特性を理解し、溶接・溶断・切断・研磨・鍛造等の金属造形の技法を修得する。
- ・ ガス、アーク溶接や大型工作機械の操作における安全知識を修得する。
- ・ 課題制作におけるプレゼンテーションや講評会での言語によるコミュニケーション能力をより高める。

【授業計画・方法】

1. ガイダンス、ドローイング：自らのテーマ創出と実験的・独創的な作品制作を積極的に試行する。
2. ドローイング、プレゼンテーション：彫刻表現の可能性を探り自身の言葉で発表する。
3. 非鉄金属（ステンレススチール、アルミニウム、銅、真鍮）の知識を修得する。
4. 制作：制作対象のイメージに合う金属材料を探索する。
5. 制作：金属素材の選定、作品サイズを決定する。
6. 制作：大型工作機械や金属工房機材を用いて金属素材を加工する。
7. 制作：アーク溶接、ガス溶接の技術を用いて金属素材を加工する。
8. 制作：金属彫刻における構造と重心、バランスの関係を意識する。
9. 中間講評：作品制作過程における個々の問題点などを論じ合う。
10. 制作：スライド及び参考作品鑑賞（東南アジアの金属彫刻を中心に）
11. 制作：デッサンを確認し、表現における対象と作品の関係を理解する。
12. 制作：実践を通して独創的な鉄の表現や作品の構成を意識する。
13. 制作：作品の設置方法を考慮しながら、作品の安定性と安全面の確認を行う。
14. 制作：腐蝕、着色作業（サビ付け、黒鉛付け、研磨による磨き）
15. 講評、自己評価とディスカッション、作品記録、掃除

【成果物】 ドローイング1点、課題作品1点、レポート（制作意図等）

【評価の方法・基準】

- 方法 平常点（制作への取組）40%、成果物（作品1点、ドローイング1点、レポート1件）60%
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。
作品の完成度、独創性は評価する。

【テキスト・参考文献（資料）等】

- テキスト プリント「非鉄金属の知識」
- 参考資料 本学芸術資料館所蔵作品、学生参考作品

【実習名】 鋳造実習

【期 間】 10月1日(火)～16日(水)

【教 室】 鋳造室(彫刻棟3)

【担 当】 津波 夏希(非)、山岸 雅和(非)

【課 題】 蠟型鋳造作品制作

【授業の概要】 (テーマ) シリコン型蠟原型による蠟型鋳造技法

シリコン型取りによる蠟原型制作を経て、石膏型ロストワックス鋳造を実習する。

【到達目標】

- ・ シリコン取り技法の基礎を修得する。
- ・ 石膏蠟型鋳造の基礎を修得する。

【授業計画・方法】

1. シリコン雌型取り：原型前処理、原型見切り、巾置、シリコン塗布、ガーゼ貼り、石膏寄せ取り
2. シリコン雌型取り：寄せ型補強、型返し、雌型裏面（シリコン塗布、ガーゼ貼り）
3. シリコン雌型取り：石膏寄せ取り、寄せ型補強
4. シリコン雌型取り：雌型外し
5. シリコン雌型取り：
6. 蠟型鋳造：
7. 蠟型鋳造：
8. 蠟型鋳造：
9. 蠟型鋳造：
10. 蠟型鋳造：
11. 蠟型鋳造：
12. 蠟型鋳造：
13. 蠟型鋳造：
14. 蠟型鋳造：
15. 講評、掃除

【成果物】 ブロンズ作品1点

【評価の方法・基準】

□ 方法 平常点（実習への取組）50%、成果物50%

□ 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

【テキスト・参考文献（資料）等】

□ テキスト プリント「蠟の基本配合比」

□ 参考文献 『蠟型彫刻の技法』（山本正道 他、美術出版社）

□ 参考資料 ブロンズ参考作品

【実習名】 制作A, B

【期 間】 10月17日(木)～1月31日(金)

【教 室】 彫刻棟1、2、3

【担 当】 彫刻専攻教員

【課 題】 自己のテーマに基づいた作品制作

【授業の概要】 (テーマ) 作品テーマの創出と作品化

展示発表を前提とした制作のなかで、素材・技法への自己の適性を深く追究する。その過程で、自らのテーマ創出と実験的・独創的な作品制作を積極的に試行し、彫刻表現の実際について学び表現の可能性を探る。

【到達目標】

- ・制作において、主体的にテーマを創出し、自ら課題を発見できる。
- ・素材の特性を理解し、制作において実験的試行ができる。
- ・自ら課題を解決し、自己のテーマに沿って独創的な造形思考ができる。

【授業計画・方法】

1. 制作A(課題) 各分野の教員の指導後プレゼンテーション
2. 制作A(課題) 素材の特性の理解と選択
3. 制作A(課題) 素材・技法の再検討、素材研究
4. 制作A(課題) 展示発表計画
5. 制作A(課題) 作品講評(3年生展出品)
6. 制作B 主体的にテーマを創出し、各分野教員の指導後プレゼンテーション
7. 制作B ドローイング、マケット制作
8. 制作B 素材・技法の選択
9. 制作B 素材の特性の確認
10. 制作B 技法、工程の確認
11. 制作B 担当教員(素材・技法ごと複数)とのディスカッション
12. 制作B 素材研究、作例研究
13. 制作B 制作工程、展示計画確認
14. 制作B 作品の密度と効果検証
15. 制作B 仕上げ、展示計画

3年生展：全体講評

【評価の方法・基準】

□ 方法 平常点(制作への取組)40%、成果物(ドローイング、作品、レポート各2点)60%による総合評価

□ 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

作品の完成度、独創性は評価する。

【テキスト・参考文献(資料)等】

□ 参考資料 学生参考作品

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
22411	彫刻Ⅳ	15 単位 通年	4	実技	波多野 泉 河原 圭佑 砂川 泰彦 長尾 恵那 非常勤講師

■テーマ 彫刻表現研究と卒業制作

■授業概要

自己のテーマを創出し、独創的で完成度のある作品表現を目標に、前・後学期別に計画を立てて展覧会発表を前提に制作する。教員の彫刻家としての実務経験を背景にした指導により、社会での作品発表を念頭に具体的な方法論を実践的に学ぶ。

前・後学期中に制作した作品の中から卒業作品として提出する。

■到達目標

- ・制作において、主体的にテーマを創出し、自ら彫刻表現の課題を発見できる。
- ・自ら課題を解決し、自己のテーマに沿って独創的な造形思考ができる。
- ・自らの考えを論理的に記述し、口頭で発表できる。
- ・卒業制作相当の質（高い完成度、説得性）、量（ボリューム、作品数）の作品を制作し、発表できる。

■授業計画・方法

1. 作品構想：テーマの創出、素材・技法の研究（表現素材の特性を理解し構想する。）
 2. 前期制作プレゼンテーション：作品構想（作品1点以上のドローイング複数枚、エスキース）
 3. 作品コンセプトについて担当教員とのディスカッション
 4. 制作に伴う作例研究、素材・技法の確認
 5. 中間発表、展示計画確認
 6. 高い完成度の追究
 7. 4年生展（前期成果発表展）：講評、自己評価とディスカッション
 8. 後期制作プレゼンテーション：エスキース・ドローイング複数枚の構想計画
 9. 制作：表現素材の特性を理解する。
 10. 制作：作品コンセプトについて担当教員とのディスカッション
 11. 制作：素材・技法の確認、展示計画構想
 12. 制作：中間発表1：作品コンセプトとの整合確認
 13. 制作：作品の構造、表現の方法などの修正
 14. 制作：中間発表2：作品コンセプトとの整合確認、フィニッシュワーク（密度等）の方向性確認
 15. 制作：作品の完成度確認、作品展示計画決定
- 卒展（成果発表展）：全体講評、自己評価とディスカッション

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・展覧会後に作品の写真等による記録作成を各自で行い、デッサン・ドローイング・試作・課外制作等の記録もあわせて学年末にポートフォリオとして提出する。

■成績評価の方法・基準

- ☐ 方法 平常点（制作への取組）30%、成果物70%による総合評価

〈成果物〉作品2点以上、作品コンセプトシート（制作意図等）、ドローイング1点（木炭紙大）、ポートフォリオ

- ☐ 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

- ☐ 適宜、教示する。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
22231	彫刻特論Ⅰ	2単位 通年	2	講義	波多野 泉 河原 圭佑 非常勤講師 砂川 泰彦 長尾 恵那

■テーマ 彫刻史概観

■授業の概要

彫刻表現について、素材・技法等の観点から美術史上の彫刻作品を中心に制作、修理等の実際を踏まえて考察する。
実技実習及び演習の授業進行に合わせ、スライド、ビデオ、配付資料等を用いて彫刻の歴史及び理論の理解を深めるとともに、実際の彫刻制作へと繋げる。

■到達目標

- ・東西の彫刻の歴史の概要を理解し、適切に説明することができる。
- ・彫刻を中心とした美術作品について、その背景と技法等を理解する。

■授業計画・方法

1. ガイダンス、アジアの造形1（地域と素材）：西アジア～中央アジア～中国先史～殷・周（波多野）
 2. 日本の彫刻：木彫史を中心に、「私的彫刻史年表」作成（長尾）
 3. オリエントの石彫（砂川）
 4. 東南アジアの造形1：ミャンマー～タイ～ラオス～ベトナム（河原）
 5. 近代以降の塑造：フランス・イタリア・日本を中心に（波多野）
 6. 東大寺南大門：仁王像解体修理1（長尾）
 7. ルネサンス、バロックの石彫（砂川）
 8. 東南アジアの造形2：タイの仏教彫刻（タイアートにおける漆喰素材）（河原）
 9. アジアの造形2（背景と主題）：秦・漢・三国・南北朝・隋・唐（波多野）
 10. 東大寺南大門：仁王像解体修理2（長尾）
 11. アジア、日本、沖縄の石彫（砂川）
 12. 東南アジアの造形3：タイの金属彫刻（銀素材の加工と表現）（河原）
 13. アジアの造形3（地域と表象）：高句麗・百済・新羅・高麗・日本の仏教彫刻（波多野）
 14. 法隆寺宮大工西岡常一棟梁の仕事（長尾）
 15. 身近な石造物：石彫、建造物「私の彫刻ノート（1）」発表（砂川）
 16. 東南アジアの造形4：北タイ仏教彫刻とランナー芸術（河原）
- 定期試験は実施しない。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・授業内で招聘講師として美術関係者等による特別講義がある。
- ・東西彫刻史の比較研究を中心に自学自習を要する。（方法については適宜指示する。）
- ・適宜レポートを課する。

■成績評価の方法・基準

- 方法 平常点（授業への取組）40%、レポート・口頭発表 60%による総合評価
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

- 教科書 『法隆寺を支えた木』（西岡常一、小原二郎、NHK出版）（入手方法は指示する。）
- テキスト プリント「東大寺大仏」
- 参考文献 『木の文化』（小原二郎、鹿島出版会）、『奈良六大寺大観 1～14 巻』（岩波書店）、DVD『甦る仁王』（東大寺南大門「仁王像解体修理記録」）、DVD『宮大工 西岡常一の仕事』、『世界美術大全集』・『世界美術大全集 東洋編』（小学館）、『タイ国家と文学』（吉岡みね子、溪水社）、『ハリプンチャイ王国』（T. サンティ）、『アニメの像 VS. アートプロジェクト - まちとアートの関係史』（竹田直樹、公人の友社） 他

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
22331	彫刻特論Ⅱ	2単位 通年	3	講義	波多野 泉 河原 圭佑 非常勤講師 砂川 泰彦 長尾 恵那

■テーマ 作品制作・発表の実際

■授業の概要

彫刻の表現、制作発表の実際について、実技実習の進行に合わせ、近代以降の美術史を踏まえ論考する。また、担当教員の彫刻家としての実務経験を背景にした授業により、作家、作例等の具体例を素材、技法、造形思考、表現、発表の様態の観点から考察する。その上で、作品発表までのプロセスを自覚するために、受講者自らの制作の背景と思考の文章化を実践する。

■到達目標

- ・近現代の美術史を踏まえ、彫刻分野における多様な表現の実際を理解する。
- ・彫刻表現について、自らの考えを論理的に記述し、口頭発表することができる。

■授業計画・方法

1. ガイダンス、表現と素材1：戦後日本の彫刻を事例に（波多野）
2. 60年代アメリカ美術について：アースワークまで（砂川）
3. 表現と素材2：金属彫刻1－技法（河原）
4. 日本の美術：明治以降の高等教育と社会の受容（長尾）
5. 作家論1（非常勤講師／美術家等）
6. 表現と素材3：現代日本の作家を事例に（波多野）
7. 野外での表現1：アースワーク（アメリカ、イギリス）（砂川）
8. 表現と素材4：金属彫刻2－作例から（河原）
9. 表現と素材5：長尾作品を事例に（長尾）
10. 表現と素材6：ニュー・ブリティッシュ・スカルプチュア、アルテ・ポーヴェラ他を事例に（波多野）
11. 野外での表現2：パブリックアートの展開－アメリカ（砂川）
12. 表現と素材7：現代のアメリカの作家を事例に（河原）
13. 作家論2（非常勤講師／美術家等）
14. 表現と素材8：作家、作例研究（波多野）
15. 作家論3（非常勤講師／美術家等）
16. 表現と素材9：「私の彫刻ノート（2）」発表（砂川）
17. 表現と素材10：河原作品を事例に（河原）

定期試験は実施しない。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・授業内で招聘講師として作家・美術関係者等による特別講義がある。
- ・テーマごとに自学を要する。（方法については適宜指示する。）
- ・適宜レポートを課する。

■成績評価の方法・基準

- 方法 平常点（授業への取組）40%、レポート・研究課題・口頭発表 60%による総合評価
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

- 参考文献 『空間に生きる・日本のパブリックアート』、『SCULPTURE Inside Outside』(Martin Friedman, Rizzoli International Publications, Inc.)、『今日のイギリス美術』（朝日新聞社）、『アルテ・ポーヴェラ：貧しい芸術』（金井直、豊田市美術館）、『House/ Rachel Whiteread』（Phaidon Press）、『鋼鉄地帯』（西澤丞、太田出版）、『図解入門 最新金属の基本がわかる辞典・性質、加工、生産、表面処理の基礎知識』（田中和明、秀和システム）、『Dia:Beacon』（Dia Art Foundation）他

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
22291	古美術研究	4単位 後期	2	演習	彫刻専攻教員

■テーマ 日本、東洋古美術の研究

■授業の概要

主に近畿地方の仏教彫刻及び博物館等所蔵の優品の実地鑑賞と事前事後学習を通して、日本彫刻史を中心に日本・東洋美術への理解を深める。

■到達目標

- ・日本の上代から中世までの仏教彫刻を中心に、その周辺の文化とともに概要を理解する。
- ・事前事後学習、レポート等において、資料を適切に探索し、論理的に記述することができる。

■授業計画・方法

1. ガイダンス、日本彫刻史時代概説1：飛鳥、白鳳、天平
2. 日本彫刻史時代概説2：貞観～藤原
3. 日本彫刻史時代概説3：鎌倉～室町
4. 研究旅行（大阪）：国立国際美術館、国立民族学博物館
5. 研究旅行（滋賀）：善水寺、金剛輪寺、西明寺、渡岸寺、石道寺、己高閣
6. 研究旅行（洛北～嵯峨～太秦～高尾）：大徳寺（真珠庵、弧逢庵）、大報恩寺、竜安寺、広隆寺、神護寺
7. 研究旅行（洛中～東山）：教王護国寺（東寺）、蓮華王院（三十三間堂）、養源院、東福寺、京都国立博物館
8. 研究旅行（東山～比叡）：六波羅蜜寺、延暦寺（国宝殿、根本中堂、文殊楼、釈迦堂 等）
9. 研究旅行（宇治～奈良市）：平等院、興福寺、新薬師寺、白毫寺
10. 研究旅行（桜井、長谷、室生、南山城）：聖林寺、長谷寺、大野寺磨崖仏、室生寺、（室生山上公園芸術の森）、円成寺、（岩船寺）、浄瑠璃寺、（蟹満寺、観音寺）
11. 研究旅行（奈良市～当麻）：東大寺（南大門、大仏殿、蓮弁登壇拝観、俊乗堂、法華堂、開山堂、二月堂、戒壇堂、東大寺ミュージアム）、（西大寺）、秋篠寺、当麻寺
12. 研究旅行（天理～飛鳥）：天理参考館、飛鳥資料館、飛鳥寺、亀形石造物、酒船石遺跡、岡寺、石舞台古墳、橘寺、亀石、鬼の雪隠・俎、猿石、益田岩船
13. 研究旅行（斑鳩～西の京）：法隆寺、中宮寺、法輪寺、法起寺、唐招提寺、薬師寺、（西大寺）
14. 研究旅行（奈良市）：元興寺、十輪院、奈良国立博物館
15. まとめ

定期試験は実施しない。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・事前に訪問拝観予定の仏像・藏品・建築・庭園等についての研究を行い、資料を作成し実地に臨む。
- ・授業終了後にレポートを課する。

■成績評価の方法・基準

- 方法 平常点（本授業への取組）40%、レポート60%による総合評価
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。
レポートについて、自身の制作の視点による論考は高く評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

- 参考資料 『法隆寺を支えた木』（西岡常一、小原二郎、NHK出版）、『奈良六大寺大観 第1～14巻』（岩波書店）、『平等院大観 第2巻 彫刻』（岩波書店）、『仏像図典』（佐和隆研、吉川弘文館）、DVD『甦る仁王』・『宮大工 西岡常一の仕事』・『日本の庭園』、『奈良の大仏 世界最大の鑄造仏（日本人はどのように建造物をつくってきたか）』（香取忠彦、草思社）他

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
22121	絵画（彫）	2単位 前期	1	演習	高崎賀朗, 関谷理, 非常勤講師

■テーマ 様々な素材と様々な絵画技法（写真技法含む）による絵画制作

■授業概要

前半は、写真技法（フォトグラム）や様々な絵画技法（直接表現・間接表現）による作品制作を行う。後半では、素材と技法の応用表現研究として、前半に制作した作品素材と各自が収集した身近な素材（自身の研究領域を含む）を制作材料とした絵画技法（コラージュ）による課題制作に取り組む。授業を通して、基礎的かつ一般的包括的な絵画表現について学ぶ。

【到達目標】

- ・様々な絵画技法（写真技法含む）を実践体験し、絵画表現について理解を深め作品制作を行うことができる。
- ・素材と技法の応用表現研究となる課題制作について理解し絵画作品として表現することができる。
- ・論理的に口頭での発表や記述を行うことができ、他者とのコミュニケーションを円滑に行うことができる。

■授業計画・方法

1. 授業ガイダンス、写真技法（フォトグラム）の準備、説明
2. 写真技法（フォトグラム）による制作：撮影工程、素材の応用
3. 写真技法（フォトグラム）による制作：現像工程・停止工程・定着工程
4. 写真技法（フォトグラム）による制作：仕上げ、応用表現、完成
5. 様々な絵画技法の準備、説明、制作：①フロッタージュ、②ノリチック
6. 様々な絵画技法の準備、説明、制作：③デカルコマニー、④スパッタリング
7. 様々な絵画技法の準備、説明、制作：⑤マーブリング
8. 様々な絵画技法の準備、説明、制作：⑥モノタイプ
9. 課題「様々な絵画技法及び写真技法による作品と身近な素材の再構成による絵画制作」準備、説明
10. 絵画技法（コラージュ）による課題制作：発想及び構想計画
11. 絵画技法（コラージュ）による課題制作：コンセプトの立案
12. 絵画技法（コラージュ）による課題制作：制作途中作品の中間チェック
13. 絵画技法（コラージュ）による課題制作：素材と技法の応用、展開
14. 絵画技法（コラージュ）による課題制作：仕上げ、完成、コメントペーパー作成
15. ディスカッション会場設営、ディスカッション、成果作品及びコメントペーパー提出、片付け

※定期試験は実施しない。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・実習時に必要となる身近な素材（自身の研究領域を含む）は各自で収集を行う。
- ・受講に際して実習材料費を徴収します。※内訳は実習期間中に連絡し残額は返金します。

■成績評価の方法・基準

□方法 成果作品（フォトグラム作品、様々な絵画技法による作品ファイル、課題作品）60%、平常点（制作の取り組み）40%による総合評価

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

- テキスト 授業内にプリント「写真技法（フォトグラム）」、「様々な絵画技法」を配布する。
- 参考文献 『アートスクールシリーズ ミクストメディア 用語と基礎知識』著者 マイカル・ライト (Michael Wright), 訳者 石関一夫, 美術出版社, 1995年
- 参考資料：学生参考作品

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
22209	デザイン（彫）	2単位 前期	2	演習	仲本 賢 赤嶺 雅

※彫刻専攻（平成30年度以降入学生のみ）受講可。

■テーマ 彫刻表現を活用してデザインの基礎を学ぶ

■授業の概要

彫刻表現を活用してデザインの基礎を総合的かつ包括的に学習する。様々な撮影方法と表現方法を学び、さらにパーソナルコンピュータを使用して、主にAdobe Photoshop と同社Illustrator の両画像編集ソフトの学習をしながら、モチーフの観察・制作（インプット）から、紙媒体や映像メディアへの出力（アウトプット）までを、一貫して学習する。彫刻専攻の学生として作成した作品を撮影、入力、編集、出力を通して、デザインの過程を学習する。

■到達目標

- ・デザインの役割や平面構成、色彩構成としての基礎を理解することができる。
- ・映像機器（写真機、動画撮影機器）を使用して基本的な視覚デザイン表現ができる。
- ・コンピュータを使用し、印刷などの紙媒体の視覚伝達表現を実践的に活用することができる。

■授業計画・方法

1. 授業ガイダンス。デザインの社会的役割。
2. 平面構成（面と線、構図と空間の構成力）を学び、色彩構成（配色や効果について表現力）を学ぶ。（担当：赤嶺）
3. 映像機器の構造、照明及び周辺機器。（担当：仲本）
4. スタジオ撮影1。立体的な物体の効果的撮影方法。（担当：仲本）
5. スタジオ撮影2。自己作品の個別撮影方法研究。（担当：仲本）
6. デジタル写真現像。RAW データの現像処理。（担当：仲本）
7. デジタル写真現像。写真の修正（合成、変形）。（担当：仲本）
8. コンピュータ機器とOS 解説。基本機能、基本用語について。（担当：赤嶺）
9. Illustrator 基本操作1。印刷サイズについて。図形及び文字打ちなどの操作。（担当：赤嶺）
10. Illustrator 基本操作2。ツール及び配色や効果、各種パレットの操作。（担当：赤嶺）
11. Photoshop 基本操作1。画像の取り込み、画像解像度、画像補正の解説及び操作。（担当：赤嶺）
12. Photoshop 基本操作2。画像加工について、各種パレットの解説及び操作。（担当：赤嶺）
13. ソフト併用操作。レイアウトの設定、画像配置の基本操作。（担当：赤嶺）
14. 出力機器の操作及び課題制作のアウトプット。（担当：赤嶺）
15. 講評及びデザインの役割についてディスカッション。

定期試験は実施しない。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・準備：デザイン基礎である平面構成、色彩構成の作品鑑賞や写真、コンピュータを理解する。
- ・復習：授業の中で行った講義及び実技はその日のうちに整理、復習を行う。
- ・展開：学んだ授業を実践的に作品へと展開し、具体的成果へと結びつける。

■成績評価の方法・基準

□方法 平常点（制作への取組）40%、成果物（プリント作品）60%による総合評価

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

□教科書 配布するプリント

□テキスト 特になし

□参考文献 『基礎造形シリーズ 芸術・デザインの平面構成』朝倉直巳著（六耀社）、『基礎造形シリーズ 芸術・デザインの色彩構成』朝倉直巳著（六耀社）等々

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
22208	工芸B	4単位・前期	3	演習	山田 聡 非常勤講師

※平成29年度入学生（彫刻専攻）のみ受講可。

■テーマ

- ・工芸の素材、技法、工程とプロダクト制作

■授業概要

・基礎的かつ一般的包括的な工芸表現を学ぶ。本授業では、陶芸の成形から焼成までの工程を通して、工芸表現と工芸におけるプロダクト制作についての理解を深める。併せて、工芸制作や工芸作品の鑑賞を通して、工芸表現と美術表現の比較を行う。

■到達目標

- ・工芸における素材と技法・工程、道具や機器等の操作を理解し作品に表現できる。
- ・工芸制作を通して、工芸の特性と量産の概念を理解する。
- ・地域の伝統工芸の表現と、日本の工芸の伝統や文化、アジアの工芸について理解を深める。
- ・授業への参加度、「素材と技法・工程」「工芸の特性と量産」の理解度、作品の完成度、
- ・独創性を観点とする。

■授業計画・方法

1. ガイダンス（生活の中の工芸 用と美） 工芸表現における石膏型制作について
2. タタラ成形法レクチャー 基礎制作
3. タタラ成形法 用途に応じた制作
4. 手びねりによる成型法レクチャー 基礎制作
5. 手びねりによる成型法 用途に応じた制作
6. 石膏型制作解説 型制作
7. 石膏型を用いたプロダクト制作
8. 電気窯・ガス窯等の焼成法のレクチャー 作品乾燥
9. 素焼き窯詰め 焼成
10. 素焼き窯出し 釉薬の種類と施釉法
11. 釉薬の種類と施釉法のレクチャー
12. 施釉
13. 工芸作品鑑賞（日本の伝統工芸と文化、アジアの工芸について）
14. 本焼き焼成
15. 窯出し 清掃 講評会（自己評価とディスカッション）

定期試験は実施しない。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・受講際して実習材料費（2,000円）を徴収する。
- ・受講定員は20名とし、先着順とする。（但し、教員免許状取得見込み者を優先）

※ 事前受付は陶芸分野学科室にて行う。定員に達し次第受付を終了する。

■成績評価の方法・基準

方法 平常点(制作への取組)40%、成果作品(タタラ、手びねり、石膏型)60%により採点する。

基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

□教科書

授業内に関係資料を配布する。

□参考文献（作品）

「陶芸の土と窯焼き」大西政太郎著 理工学社、学生参考作品

■学生持参

作業着（汚れても良い服装）、タオル、画材一式

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
22132	美術解剖学Ⅰ(骨)	2単位 前 (集中)	1～4	講義	布施 英利(非)

■テーマ 人体のかたちを骨格から学ぶ

■授業の概要

人体についての講義です。美術の歴史では、人の体はいつも重要なモチーフでした。この講義では、人体の形と構造についての解剖学講義をします。いちばん基本である骨格からはじめ、続いて筋肉について、さらには脂肪や皮膚など生体について学ぶ前半の講義です。この「骨学」では、体幹、体肢、頭部などの骨格の形態と構造について、部位別に、そして体系的に学びます。人体についての話のみでなく、芸術とのかかわりを重視し、おりにふれ美術についても論じます。人体の形態と構造を学ぶことで、美に迫る知性と感性を磨くことを目指します。

■到達目標

- ・体幹の骨格について、その形態と構造を理解する。(人体を造形するための力とする。)
- ・体肢の骨格について、その形態と構造を理解する。(手足を造形するための力とする。)
- ・顔の骨格(＝頭蓋骨)について、その形態と構造を理解する。(頭部を造形するための力とする。)

■授業計画・方法

人体の形や構造をビジュアル的にも理解するため、言葉による説明だけでなく、解剖図や解剖の写真をスクリーンに映しながら講義を進めます。主な講義内容は以下となります。

- I.美術解剖学概論
 - 1) ヒトの見方
 - 2) 解剖とは何か
 - 3) 美術と解剖学
- II.美術解剖学各論
 - 1.骨学
 - 1) 骨とは(骨と骨格、骨のつくり、関節など)
 - 2) 体幹の骨Ⅰ 脊柱
 - 3) 体幹の骨Ⅱ 胸郭
 - 4) 上肢の骨Ⅰ 上肢帯
 - 5) 上肢の骨Ⅱ 自由上肢
 - 6) 上肢の骨Ⅲ 手の骨
 - 7) 下肢の骨Ⅰ 下肢帯
 - 8) 下肢の骨Ⅱ 自由下肢
 - 9) 下肢の骨Ⅲ 足
 - 10) 頭蓋骨
- III.まとめ
 - 1) 骨格の動き
 - 2) 全身の骨格
 - 3) まとめ、振り返り

定期試験

■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

講義用ノートを用意すること。授業に先立って、人体の造形(絵画・彫刻等)を各自で行い、授業により興味を持つよう準備する。

■成績評価の方法・基準

- 方法 平常点(授業への取組) 20%、成果作品 80%による総合評価
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。(解剖学を学んだ成果が、人体を造形するのに役立つ力となっているかを測る。)

■教科書・参考文献(資料)等

- 参考文献(大学附属図書館、彫刻専攻学科室にある。)
 - A・スニョギイ(イラスト), ギュルジイ・フェール, 布施英利訳『イラストで学ぶ 美術解剖学』グラフィック社、Richer/Hale "ARTSTICANATOMY" WATOSON GUPTILL